

萬國公法直譯

戰爭編第一

1648



114
A2576

萬國公法第四篇

第一章 戦始ヲ論ス

第二百九十條

敵國ニ對シカヲ用ヒテ冤ヲ伸ルノ權ヲ論ス

第二百九十一條

強償ノ例ヲ説ク

第二百九十二條

強償ノ運用ヲ説ク

第二百九十三條

交戦ノ前物ヲ取押ル事ニ付テ論ス

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

第二百九十四條

戦ヲ定ムルノ権ヲ論ス

第二百九十五條

公戦ノ権ヲ論ス

第二百九十六條

戦ニ三等アルヲ論ス

第二百九十七條

戦閉公布ノ論

第二百九十八條

第三百一一條

第二百九十九條

第三百條

始戦ノ後我疆内ニ有ル敵國ノ貨物没収スルヲ論ス

第三百二條

英國海軍律ノ論

第三百三條

戦争公告ノ後疆内ノ敵貨ヲ捕拏スルヲ論ス

第三百四條

米國上等裁廳ニ於テ敵貨ノ事ヲ論ス

第三百五條

敵國ニ拂フヘキ負債ヲ論ス

第三百六條 第三百七條

右負債ニ付合衆國先例ノ論

第三百八條

一千八百七年英國連國交戦時ノ先例

第三百九條

戦國ノ人民敵人ト通商不正ノ論

第三百十條

セフープレノ事件ニ付斯果徳氏ノ決論

第三百十一條

公敵トノ通商ニ付米國裁廳決定ノ先例

第三百十二條

アレキサントル船ノ先例

第三百十三條

シント、ラウレン船ノ先例

第三百十四條 第三百十五條

デエジューヨーセフ船ノ先例

第三百十六條

同盟ニテ戦フ時其敵國トノ通商ヲ禁ス

ルノ論

第三百十七條

敵ト約定ヲ禁スル事

第三百十八條

敵國ニ逃住スル者強償ヲ受ル事
グロシエ
区氏ノ論

第三百十九條

バベック氏及ヒコツシエス氏ノ論

第三百二十條

常住ト定ムルノ種類

第三百二十一條

シントイユスタチエス島ノ先例

第三百二十二條

ハルモニー船ノ先例

第三百二十三條

第三百二十四條

インゲアン、チーフ船ノ先例

第三百二十五條

チアナ船ノ先例

第三百二十六條

第三百二十七條

第三百二十八條

ラーシン船ノ先例

ラーシン船ノ先例

第三百三十三條

東土ニ在ル商賈ノ論

第三百三十四條

第三百三十五條

第三百三十六條

第三百三十七條

第三百三十八條

第三百三十九條

敵國ニ在ル商社ノ論

第三百四十條

船舶性格ヲ論ス

第三百四十一條

敵國ノ免狀ヲ以テ航スルノ論

萬國公法講義筆記

萬國公法ノ原語「イントルネー」ニヤナル

口「即チ各国交際上ニ行ハル、法ヲ云

フ、一國中官民間ニ行ハル、国法、原語「

ニレハルロ」ト異ナル所アリ、

公法中要領大段ニツニ分ル、其一ハ平和

ノ時行ハル、モノ、又一ハ戦争ノ時ニ行

ハル、モノ、此第四篇以下ハ即チ戦時ニ

係ル

第四篇

敵國ニ對シ有スル權利

平和ノ時ハ甲国ヨリ乙国ニ對シ、交際上互ニ得ル所ノ權利ヲ行フヲ自由ナレトモ、事故アリ争端ヲ開キタル時ハ、互ニ之ヲ保ツコトヲ得ス、其時ハ互ニ自主ノ国權ヲ推シテ、敵國ニ相抗スルノ權アリ、

第一章 戦始ヲ論ス

第二百九十条

凡自主ノ国互ニ争端ヲ開キテハ、他ノ中立國之レニ仲入レテ和議ヲ整ヘントスルモ、其兩國互ニ承諾スレハ、整フヘシトモ、仲入ノ國ニ之

レカ裁判ヲ為ス一能ハス、獨リ萬國公法アリテ循フヘキモ、各國各法アリテ、其國民ノ違直ヲ判スヘキカ如クニ非ス、各國互ニ侵凌ヲ受ル時ハ、裁判ヲ求メテ其冤屈ヲ伸フル所ナシ、唯害ヲ受ケタル國、カヲ用ヒテ報復ヲ為ス、權理アルノレ是國法ナキ土地ノ人民、害ヲ受ケテ訴フル路ナク、カヲ用ヒテ自カラ保護スル、外他ナキカ如シ國ト國トノ間ニ、冤屈ヲ受クルコトアレハ、各國自カラ断決ヲナス、追ナリ兩國互ニ争端ヲ開キタルモ、未ダ戦ヒニ至ラザル前ニ、カヲ用ヒテ

其争ヲ解クノ道四ツアリ

第一害ヲ受ケタル甲国ニテ、害ヲ加ヘタル乙国ノ船舶其他ノ貨物、甲国ノ境内ニアルモノヲ取

押ル事、

第二争ヲ所ノ物貨土地ヲ奪取リ我々所有ト爲シ、彼ヲシテ所有ノ權利ヲ得セシメサル事、タトハ、英国ヨリ佛国ニ對シ害ヲ加ヘタルニヨリ、佛国ニテ英国ノ貨物ヲ奪ヒ取り其所有トナシタリ、因テ英国ヨリ掛合請求スレド、佛国ヨリ之ヲ返スナキノ類ナリ、

第三甲国乙国ニ對シ怨アレハ、甲国之レニ怨ヲ報復スルノ權ヲ行フ、或ハ甲国ヨリ米糧ノ取扱ヲナセハ、乙国ヨリモ亦平穩ノ取扱ヲ以テ報スル事、タトハ、獨乙人佛国ニ住居スルニ、佛ニテ面倒ナル法律ヲ立テ束縛ヲ極ム、因テ獨乙人何故ニ箇様ナルヤト云フ、佛ニテ国法ナリト云フ、然ル片ハ獨乙ニテモ同様窮窟ナル法ヲ設ケテ、獨乙ニアル佛人ヲ束縛スルノ類ナリ、

第四甲国乙国ヨリ害ヲ蒙リタルヲ以テ、乙国ノ人民及ヒ貨物ヲ引留メ、乙国ヨリ其害ヲ復スル

ニ是ルヘキ十分ノ償ヲナシタル上ニアラサレ
ハ其物ヲ返サ、ルノ權ヲ行フ事、

此第四項ハ前ノ三項ヨリモ事情切迫戰ニ迫
トナシ戰ニ至ラサル前ニカヲ用ヒテ其害ヲ復
スル種類皆此中ニアリ、

第二百九十一條

前條カヲ用ヒ宛ヲ伸ヘテ戰ヲ為スニ至ラサル
者ヲ強償ト云フ、原語「レ」強償ニ二種アリ之ヲ

内外ニ別ツ、

内トハ原語「レ」甲ノ欲スル所ヲ乙否ニ

テ為サ、ルヲ云、タトヘハ甲物ヲ乙ニ借リ、乙催
返スルニ、甲否ニテ返サ、ルノ類ナリ、

外トハ原語「レ」甲ノ欲スル所ヲ乙否ニ

ハ物貨ヲ取押ヘ、抵償ニ備フルヲ云フ、タトヘハ

害ヲ加ヘタル国ヨリ、償ヲ十分ナス迄ハ、引當ニ

スルノ類ナリ、右強償中ニ内外ノ區別緊要タリ、

再ヒ強償ヲ分ツテ二種トス、其一ハ一般ノ強償、

原語「レ」又ハ特別ノ強償、原語「レ」

此是ナリ、

一般ノ強償トハ、甲国乙国ヨリ害ヲ受タルヲ以

一、甲国其臣民ニ布告シテ乙国ノ人民貨物ヲ見
 レハ何レノ処ニアルヲ論セス、即チ取押ユルヲ
 准ス。一、近今ノ條規慣習ニ後ハ、此等ノ
 取扱公戦初發ノ基本トナシ右ノ場合ニ於テ乙
 国ハ甲国ノ戦争ヲ挑ム奉勅アルニ付、速カニ償
 ヲ為サハレハ、交戦ヲ免レ難シト云フ知ルヘシ
 特別ノ強償トハ、平時甲国ノ人民乙国ノ政府或
 ハ其臣民ヨリ害ヲ受ル時、其害ヲ蒙リタル本人
 ニ書付原語トルヲモルニ譯シテ報復免
 状ト云フ其国君ヨリ與ヘテ自カラ其人
 受ク報免状ヲ云フナリ

物ニ對シ行フ強償ヲ云フ、一般ノ強償ハ、一及一
 物ニ限ラス、敵トスヘキハ総ヘテ目柱スヲ云ヒ、
 特別ノ強償ハ、一人一物ニ限り敵ト目指スヲ云
 フナリ、
 前項ニ云フ如キ強償ノ免状ハ、タトヘハ甲国乙
 国ヨリ詐偽壓制ヲ受ルヲ強ク、屢々告訴スレハ、
 乙国ニテ正理ヲ以テ其冤屈ヲ洗雪セサル時、始
 メテ之ヲ給スヘシ、否サハ時ハ、決シテ此免状ヲ
 與フヘキモノニアラス、直ニ戦争ニ至ルニ因テ
 ナリ、

右強償ノ免状ハ其国ノ帝王ニアラサレハ給ス
ルノ權ナシ古ハ各國條約アリ各國法律アリ
テ如何ナル時ニ用ユル云フ定メアリ即チ英
王第五世「ヘンリ」ノ定律ニ本國ノ民若シ平時他
國ノ強暴冤屈ヲ受ル時ハ其本人ニ強償免状ヲ
與ヘテ自カラ往テ取揚引當ニナサシムヘシト
アリ又一千六百八十一年佛ノ十六世「路易」ノ海
軍律ニ佛國人他國ノ強暴冤屈ヲ受ル時ハ強償
免状ヲ與フテ詳カニ論シタルモアリ然レ
モ近今開化進ミ平和ノ時ニハ此ノ特別ノ強償

免状ヲ與フルヲ行ハス

第二百九十二條

強償ハ原來甲國ヨリ不埒ヲナシタルニヨリ乙
國ニテ其償ヲ責ムルノ方法ナルニ付其強償ヲ
行フトモ又ハカヲ用ヒテ何程己レノ冤屈ヲ伸
フルモ甲國ニテ其不埒ノ償ヲナサレハ乙國
ニテ兵ヲ起シ報復ヲ謀ルトモ差支アルヲナシ
發得耳氏云乙國ヨリ甲國ニ償ヲ求ムルニ甲國
ニテ其償ヲナサレ時ハ乙國ニテ自カラ其屈
ヲ伸ルヨリ外ノ道ナシ故ニ甲國前方乙國ノ財

貨産物ノ一ニ付、不埒ノ下ナシテ其拂ヒ還シ、
又ハ引當償ヲナサ、ルカ如キモノハ、其損害ヲ
受ケタル者、甲国ノ貨物、取押フヘシ、甲国ヨリ
償還ヲナシ、並ニ其損害ノ費ヲモ出サシムル為
メニ、或ハ己レノ用ト為シ、或ハ之ヲ質ト為スヘ
シ、若シ甲国其償ヲナサ、ル下必定スルヲ知ラ
ハ、之ヲ使用ストモ可ナリ、若シ乙国ニテ、後日裁
判ヲ願フノ存意アラハ、必ス存シテ用ユヘカラ
ズ、甲国ニ於テ償ノ意モ絶エ、裁判ヲ願フノ道モ
絶ユル時ハ、即チ其品物ヲ没収シテ、始メテ強償

ヲ遂ケルト云フ可シ、尤モ兩國和好ヲ失ヒ、戦ヲ
交ルノ景況ニ至ツテハ、固ヨリ甲国ニテ裁判ヲ
ナサ、ル下必定ナリ、前ノ取押ヘタル物貨ヲ、還
延ナク公ニ没入スヘシ、

第二百九十三條

嘗テ英ト蘭ト和好ヲ失ヒ、一千八百零三年ニ、英
国ニテ、荷蘭我ニ對シ不正ノ廉アリト云ヒ、即チ
英国疆内ニアル蘭ノ船中、貨物ヲ抑留セシニ、其
所有主訴ヘ出タル時、英国公師ノ説ニ、抑モ物貨
ヲ抑留シタル下ニ二様ノ意アリ、争フ所ノ事柄

和ニ復スル時ハ、暫時ノ抑留ニシテ其物貨ハ必
ス還シ渡ス可シ、若シ其争ヒ解ケスシテ、戦ヲ交
エル時ハ、其貨物ヲ此方ニ取揚テ官ニ入シ、戦ヲ
為ス始メトナルヘシ、二様トモニ以後和スルカ
和セサルカヲ俟ツテ、其事ニ落着テ知ルヘシ、和
スレハ、暫時ノ抑留トナリ、戦ハ則抑留ニ止マラ
ズ、戦ノ部中ニ入ル。

第百九十四條

戦ヲ決定スルノ權、強債ヲ許スノ權、並ニ甲国ヨ
リ乙国ニ報復スルノ權ハ、固ヨリ国帝ニテ掌握

スル所ニシテ、各国律法アリ、管轄スルヲナレト
モ、時アリテ地方隔遠セル各部属ニ長ニ授ケ、各
国ニ交通セシムルヲアリ、素ヨリ本国ノ管轄中
ニ在リト虽モ、其任ヲ受ケタルモノハ、自主同様
ニテ、上ニ説ク所ノ權ヲ行フヲ得ル、即チ印度
ノ英国通商大會、原語「ブリチン・ペイ」本國ノ權
ヲ以テ鄰國ト交戦スルト否ストノヲ決定ス
ルヲ、本國ヨリ准シテナリ

第百九十五條

獨立國互ニ戦ヲ交エルヲ公
戦原語「パブリック」ト云、其法規ニ依リ戦ヲ、公

布シ或ハ舊例ニ照シテ戦ヲ始ムルカ如キハ即
 チ光明正大ノ戦ニシテ兩國均シク戦ヒ各ノ權
 ヲ有スル故ニ公法ニ於テ兩國ノ曲直ヲ論スル
 ヲナク、双方戦理ヲ有スル者トス、故ニ甲國ニテ
 何等ノ權ヲ行フヲ准シ、乙國ニテモ亦必何等
 ノ權ヲ行フヲ准ス、戦ヲ始メサル前ハ双方曲
 直ヲ論スヘキナレトシ、戦ヲ公布スル上ハ、双方ノ
 曲直ハ消滅スルヲナリ、
 第二百九十六條 兩國戦ヲ交エシ時、其全国中
 ノ民ヲシテ何レノ地何レノ時ニ淪ナク、カテ協

セテ敵國ノ臣民ハ、総テ攻伐スヘキヲ准シ、萬
 國ノ軍律ニ在テ許サ、ル所ヲ犯スヲナケレハ、
 之ヲ名ケテ十分ノ戦ト云、原語「ペルハツト」
此處「交那澤」ニ於テ
 軍律ニ在テ許サ、ル所トハ、老幼ヲ虐セス、癡
 瘖ヲ殘セサルノ類、交那澤ニ不犯 倘シ兩國兵ヲ
 交エルト虽モ、何レノ地何レノ人何レノ物ト定
 限シテ戦フ時ハ、之ヲ名ケテ十分ノ戦ト云、原語
「インペル」ヘツト「オ」
「交那澤」ニ限戦トス
 古ノ外ニ民間ノ戦アリ、原語「ヒル」 亞米利加獨
 立トナル時ノ戦争是ナリ、「グロ」ニ「エス」 氏「交那澤」

凡ト之ヲ名ケテ雜戰ト云原語ト云キ其說ニ政
府ニ就テ論スレハ公戰ト云フヘクモ、背叛者ニ
就テ論スル時ハ私戰ト原語ト云フオトハ然レ
氏各國ノ慣習ニテ其政府ニ就ク者モ、又背叛者
ニ就ク者モ、均シク同一ノ戰權ヲ有シ、局外ニ對
シテモ亦戰フノ權利アリトス
局外ニ對シテモ戰權アリトハ、局外國ヲ敵視
シテ戰フノ權アリト云ニアラス、タトヘハ亞
米利加國內ノ戰爭ニ、局外タル弗國ノ船艦等
アル時ハ之ヲ局外ノモノト見ス、便チ敵艦ト

看做シテ攻伐スルノ權アルヲ云ナリ、原來公
法ニ於テ戰地トナル場所ハ、預メ期限ヲ定テ
外國人ヲ立退シムルノ公布ヲナスヲニテ、其
公布ニ循ハス、其地ニアレハ局外ノモノト虽
氏、敵視セラレテ害ヲ受クルモ、亦不服ヲ述ル
ヲ得ス、
第百九十七條 嘗テ交戰ニ至ル時ハ、敵國ニ
對シテ戰陣ノ公告原語シヤクテ、兩國兵
ヲ交ユルノ要務トセリ、故ニ昔時一般羅馬國ニ
於テ此例ヲ用ヒ、午後歐羅巴諸國ニ於テモ、既ニ

一千六百年間ニ至ル迄テ俱モニ之ヲ遵守セリ、
即チ一千六百三十五年「ブリュセル」ニ於テ、佛國
西班牙國ニ對シテ戰フ時、猶ホ中古ノ例ニ依リ、軍
使ヲ遣テ以テ戰閉ノ公告ヲナシタリ、其後遂ニ
此例ヲ廢止ス方今ノ風習ハ、唯我カ國內ニ頒布
原語「モ」ニシ、洽ネク始戰ノ模様ヲ告クルノニ、此
公布ハ、預メ敵國ト往來スル、我カ國民注意ノタ
メ、並ニ公法ニ於テ正戰ニ歸スル所以ヲ知ラシ
ムルニアル、若シ此公布ヲナサ、ル時ハ、後日和
約ノ時ニ當テ、戰閉正理ニ出ル事ト、全ク真害
原語

「ク」トヲ受ケタル事トヲ區別スルヲ難キニ
至レハナリ、全ク真害ヲ受ケタルハ、時トシテ固
復テ請求スルヲ得ルト、虽モ公戰ニ至レハ之
ヲ討ムル能ハサルナリ、
第二百九十八條 既ニ交戰スルニ當テ、敵國ニ
對シテ公戰ノ公告、或ハ其他ノ報知ヲナスヲ要
セス、且ツ敵國ニ屬スル貨物ハ、内外何レノ地ニ
在ルヲ論セス、始戰ノ後、均シク之ヲ捕拏シテ
戰利原語「グライズトナス」ヲ得ヘシ、然レモ法
師此ニ論アリ、其說甚タ同シカラス、各國現今ノ

通習ニテハ、何レノ地ニ在ルヲ論セス、然テ敵貨ヲ奪フノ戦権ヲ除キタリト見エタリ、其一例ハ則チ局外国ニ在ル敵貨ヲ云フ、蓋シ此局外国ニ在ル敵貨ヲ恕レテ奪ハサル所以ノ者ハ、全ク局外国ヘ對スル交情ニ出ル所ニレテ、敢テ敵国ノ貨主ヲレテ、所有ノ権ヲ得セムルニ非サルナシ、其他各国ニテ聽ル所ノ戦権外ノ事アリヤ、今又之ヲ論スルノ如シ古時羅馬ニ於テ、他國ト交戦ノ際、其国内ニ在ル敵人ヲ捕ヘテ奴隸トナシ、或ハ竟ニ之ヲ殺レテ理アリトセリ、故ニ

我疆内ニ在ル敵貨ヲ奪フ、元ヨリ論ヲ俟タサル所ナリ、嘗テ一千六百二十五年「グロシユス」氏萬國公法ヲ著ハレテ之ヲ論スルニ、大抵羅馬ノ律依ラサルハナシ、然レモ同氏此書ヲ著ハス頃ハ人情稍仁厚ニ赴クヲ以テ、後テ大ニ其法ヲ寛ニス、譬ヘハ戦際債主アリテ之ヲ敵人ニ討求スルノ権アルキハ、只戦際ノミ之ヲ討メス、再ヒ平和ヲ待テ、之ヲ索ムルノ権アリトセリ、一千七百三十七年「賓克舍」氏公法ヲ著ハシ論スル所「グロシユス」氏ト同ク羅馬ノ律法ニ據テ之ヲ説ク、同

氏ニ後ハ、元來交戦ノ始メ敵ニ公告ヲナスヲ
要セサルヲ以テ、爰ニ預メ敵国ト約定ヲ取結ヒ、
若シ兩國和ヲ失シ交戦ニ及フ時ハ、互ニ先ツ貨
物ヲ收回スヘキ条アルニ非レハ、敵人ノ貨物ヲ
奪フニ預メ之ヲ通知スルヲ要セス、則チ此規
則ハ、奪フ所ノ物ト同シク、各債負債等ニモ及ホ
スルヲ得ルナリ、同氏又此規則ヲ確定セシカタ
メ、一千五百五十六年ヨリ一千六百五十七年ニ
至ルマテ、殆シト一百有餘年間、各国此規則ニ後
フノ諸例ヲ出シタリ、然レモ同氏書ヲ著ハズノ

前七十年即チ一千六百六十七年後、此例ニ議疑
ヲ生シ、殊ニ和蘭宰相大ニ之ヲ駁シ、乍後其例ヲ
見サル事ヲ載セタリ、故ニ佛國維新ノ大戦前殆
ト一百五十年間、古例ニ據ル者僅カニ一人ア
ルノミ、即チ所謂一千七百五十二年「レニア
」ニ負債ノ一事ニシテ、是レ英國普國ノ船舶ヲ捕
撃セシニ因リ、普王為メニ英民ニ對シ、強償ヲ行
ヒシ一例ナリ、于時英國法師之ヲ論シテ云ク、凡
ソ王侯ヨリ庶民ニ拂フヘキ負債アルニ、王侯直
チニ之ヲ追メテ強償ヲ行フ例未タアルヘカ

ラス、夫レ庶民ヨリ王侯ニ財ヲ貸スハ、全ク王侯
ヲ信シ面目ヲ重ニスルニ因ルヲ以テ、王侯若シ
財ヲ償ハサルモ、諸民ト一様之ヲ裁廳ニ出シテ
斬スルヲ能ハサルナリ、曾テ英佛交戦ノ時、此公
議ヲ守リ、英人佛国ニ公債アルモ、佛人英国ニ公
債アルモ、其敵人ニ拂フヘキ公債ハ、措テ之ヲ問
テナシ。

第二百九十九条 發得耳氏、賓克舍氏、著書ノ後
二十年ヲ経テ、公法ノ大理ヲ論シテ云ク、凡ソ此
疆ニ有ル敵国ノ財物ハ、不動産ヲ除キ皆之ヲ捕

拏没入スルヲ得ルヲ載セタリ、元ヨリ国王准
ルシテ他人ニ得セシムルハ、不動産ハ、本民ノ所
有スル不動産ト異ナルヲナキヲ以テ、之ヲ没入
スルヲ能ハス、唯其生スル所ノ利徳ハ、封シテ之
ヲ敵ニ送ルヲ免サ、ルノニ、負債及ヒ其他ノ貸
物ハ、同シク取テ之ヲ没入ス、同氏曾テ「ゲロシエ
」氏ノ拏ケタル一例ヲ引テ之ヲ論ス、即チ是レ
推荐人ヨリ得撒利人ニ拂フヘキ負債アルニ、要
利三徳、推荐ヲ破テ負債一百担金ヲ取り、之ヲ恩
施トシテ得撒利人ニ送りタリ、又国王ハ其国民

ノ敵国ニ負債アル者ヲ支配スルノ權アルヲ以テ、戦際已ニ拂フ期限トナリタル負債ヲ没収シ、或ハ戦争中敵ニ對シ、其国民ニ負債ノ消却ヲ禁スルヲ得ヘシ、然レモ現今歐羅巴各国通商ノ利益安全ノため、遂ニ此嚴法ヲ宏寬ニセリ、夫レ各国相通商スルハ、互ニ一般ノ風習ヲ守リ、俱ニ信用スルノニ由ルヲ以テ、其通慣ニ背ク者ハ、大ニ公信原語ハツキヘバ、凶リヲ害スルヲ以テナリ、故ニ国家敵人ニ負債アリト雖モ、其公信ニ托スル者ハ、何レニ在ルモ戦時捕拏ノ權外ニ属スル者ト

凶發得耳、氏又此權外ニ属スル所以ヲ記テ云ク、強債ニ托シ、敵人ノ貨物、其国王ニ属スル物モ俱ニ均シク之ヲ捕拏ス、其国君ニ属スル萬貨ノ公信ニ與托セラレ、貨物ニアラサル片ハ、之ヲ捕拏シテ強債ヲ行フヲ得ヘシ、蓋シ如此キ貨物ハ、其貨主偏ニ我ヲ信シテ以テ我カ掌中ニアル所ノ物ナレハ、戦時ト雖モ之ヲ保護セサルヘカラス、英佛其他各国公信ニ托スル金貨ニ就テモ、亦此例ヲ遵守セリ、同氏又云ク、始戦ノ後我カ疆内ニ在ル敵国ノ人民及ヒ其貨物モ亦之ヲ

強迫スルヲ能ハス、是レ敵入ル此国ニ来ルハ、全
ク公信ニ頼ル所ニシテ、既ニ其居住ヲ准ルハ上
ハ、始戦ニ當テモ、亦帰国ノ自由ヲ得セシメ、安全
ヲ計ラシムルヲ通理トス、故ニ始戦ニ當テハ、敵
人ニ對シテ国王ヨリ預メ布告シテ、其貨物運搬ノ
タメ、相當ノ時間ヲ與ヘ以テ其帰国ヲ准ルスヘ
シ、故ニ敵人尙ホ遲延シテ期日ヲ過ル時ハ、之ヲ
敵人トシテ取扱フヲ得、然レモ真ノ敵兵トハ
視ル可カラズ、唯兵仗ナキ敵人ト視ルノミ、
第三百条 以上論スル所ヲ以テ之ヲ三ルニ現

今交際上ノ通則ニ於テ、始戦ノ後我疆内ニ在ル
敵国ノ貨物或ハ我カ政府ノ民ヨリ敵人ニ拂フ
ヘキ負債等ハ、戦利トシテ之ヲ捕拏スルヲ能ハ
サルト見エタリ、但シ此規則ハ、厚約定ヲ以テ
取極ムル者ニシテ、若シ其約定中ニ明条ナキ片
ハ、縱令ヒ一ノ定律トナルト虽モ、変スヘカラザ
ル者ト考フヘカラス、是レ今日仁義開明ノ他ノ
諸則ノ如ク、極メテ美則トナスト虽モ、其權更ニ
国君ノ專断ニアルヲ以テ、一君是ヲ是トスルモ
一君亦之ヲ非トスルヲ得、ハ、必ス律法ノ變

易スヘカラサルカ。如キ規則ニ非ス、政体ニ關係
シテ、又絶エス變化スルヲ得ヘシ、
第三百一条 右事情ヲ斟酌シテ變化セサルヲ
ヲ得ストハ、即チ敵ノ行ヲ所ヲ見テ、我モ亦法律
ヲ変スルヲ云フナリ、故ニ敵若シ其疆内ニ在ル
我カ人民ノ所有品ヲ没收シ、或ハ始戦ノ後、我カ
民ニ拂フ可キ負債ヲ償ハサル時ハ、其模様ニヨ
リ、時トシテ之ニ報エルニ同一ノ處置ヲ以テス
ルヲ得ヘシ、此五角ノ所ニ用エルハ、屢公法ノ
許ル所ナシ、斯畢德氏云ク、交战ノ時、敵国若シ

戦前ノ貨物ヲ捕拏スレハ、我モ亦之ヲ捕拏シ、敵
国又給還スルハ、我モ亦之ヲ給還スルヲ以テ、英
国ノ常例トスト云フ、同氏又云ク、是レ英国ニテ
裁定スル建国基礎ノ一律ニシテ、戦時敵国ニ於
テ、我カ商人ヲ拘留シ其還ルヲヲ准サ、レハ、我
モ亦敵国ノ商人ヲ留メテ出ツルヲ准サ、ルナ
リ、前条ニ奉クル一千七百五十三年「レ」レ「ア」
「レ」ノ負債ニ付テ、普王強償ヲ行ヒタルノ不當ナ
ルヲ論セ、レカ為メ、英国法師尚ホ例ヲ引キ訴テ
曰ク、嘗テ英西交战ノ後、佛國ニ戦争前、英国誤テ

佛船ヲ捕拏セリ、予後英國條約ト交戦ニ及ヒシ
ト虽モ、英國裁廳之ヲ断決シテ、其船ヲ佛國ノ船
主ニ還附セリ、如此キ船舶貨物ハ、戦時ト虽モ之
ヲ敵國ノ貨物トシテ没入スルヲアル可カラズ、
是レ最初誤テ得ルニ非サレハ、必ス英國ノ有ト
ナラサリシヲ以テナリ、

第三百二條 英國中古ノ習慣ハ、更ニ旧法ノ完
寛ナルヲ壓シ、較近英國他國ト海戦ヲ始ルトキ
ハ、其疆内所産ニ在ル所ノ敵國ノ貨物ヲ捕拏シ
テ戦利トナス、敵國ノ我ニ對シ行フ所ヲ俟テ後

報ユルニハ非ス、是レ英國現今ノ海軍律ト又、然
レ氏前條ニ述ル和蘭ノ船舶ニ付、斯^{スコット}畢德氏意見
ヲ演ヘシ如ク、妄リニ敵國ノ貨物ヲ捕拏スル時
ハ、爰ニ戦閉預定公告^{原語ウエル}トシヤエト、確定
公告^{原語アクト}トシヤン^{トノ區別アルヲ以テ、若}
シ誤テ預定ノ公告中敵貨ヲ捕拏スル時ハ、之ヲ
確定公告後ノ捕拏トスルニ、必ス紛議ヲ生スル
ヲアル可シ、

第三百三條 一千八百十二年英米戦争ノ時、米
國上等裁廳ニ於テ決スル所ハ、公告ノ後合衆國

疆内ニ在ル敵貨、公會ノ定律中ニ判然敵貨没
収ノ定例アルニ非レハ、敵貨ヲ捕拏シテ戦利ト
ナスヲ得ス、公會ノ定律ニ如此キ例アラサル
ヲ決定セリ、夫レ戦争ノ公告ノニテハ、敵貨ヲ
我カ政府ニ没入シ、以テ捕拏没入ノ為メ其裁判
ヲ即クルヲ能ハス、故ニ政府ハ唯敵貨ヲ没入ス
ルノ權アルノニテ、之ヲ聽ルスト聽サ、ルト
ハ、獨リ国君ノ威權ニ存スルノニ

第三百四条、交戦ノ時ニ當ツテ、債負債ヲ捕拏
没収スルヲ禁シ、復ヒ平和ヲ俟テ追索ノ權アル

ノ通習ニ因テ考フレハ、即チ戦争ノ公告ノニ
テハ、断然敵貨ヲ没入スルヲ得ス、唯之ヲ没入
スルノ權アルヲ認ムルニ足ルノニ、是レ米國上
裁廳ニ於テ論定スル所トス、

法律ヲ信シテ取結ヒタル負債ト、并ニ法律ヲ信
シテ商事ニ於テ得タル貨物トハ、毫モ區別アル
下無シ、通習ニ因テ縱令ヒ戦争公告ノ後、港内ニ
在ル敵人ノ船舶船貨ヲ捕拏スルヲ得ルト虽モ、
方今ノ習俗ニテハ、平時商事ニ於テ得タル陸上
ノ貨物ハ捕拏スルヲ聽ル可カラサルナリ、

夫レ之ヲ捕拏スルハ甚タ稀ニシテ、戦権ノ最モ
暴戾ナル處置ト考フヘシ、但シ如此キ通習ハ一
般ニ行ハレサルトモ、亦事情ニ由テ止ム
ヲ得サル時アリ、夫レ始戦ノ後、如此キ敵貨ハ国
君ニ帰ス可キヤ、或ハ没収ノ権ニ属スルヤ、之ヲ
取捨スルノ権ハ、全ク国君ノ意ニ関係ス、始戦ノ
後、一物ニ行フヲ得ルノ規則ハ、他ノ萬事ニ行
フトモ、戦権ニ於テ更ニ異ナルトシ、故ニ敵人
ノ負債ヲ没収スル王権、我々疆内ニ在ル他ノ
萬貨ヲ没収スルモ、其理一ニシテ、敢テ其権異ナ

ルトナシ、ビニル宿氏ノ論スル所ニ據レハ、戦時ニ當テ
敵国ニ對シ行フ所ノ諸事、悉ク之ヲ西理トス、
敵人兵仗ナシトモ、之ヲ殺シ、或ハ奸計ヲ施シ、
或ハ毒藥ヲ用ヒ、以テ敵人及ヒ其萬貨ニ對シ行
フ所ノ權利ニ於テハ、必ス定限アル可カラズ、然
レ氏国君ヨリ敵人ニ拂フ可キ負債ハ、戦争ノ為
メトテ之ヲ国王ニ取ルヲ聽サス、故ニ如此キ
負債ヲ拂ハサレハ、復ヒ平和ヲ俟テ、債主尚ホ之
ヲ追索スルノ権ヲ有ス、是レ同氏ニ從ヘハ、凡戦
争ニ於テ行フ所ノ事業ハ、法律ニ依ルヨリ、却テ

寧情ニ深ク關係スルヲ以テ大^レ同氏又云ク必
ス敵ノ負債ヲ聽ルス事ヲ真情ト考フ可カラス
是レ敵人ニ屬スル他ノ諸貨或ハ隱匿セラル、
者アリ或ハ没収ヲ免ル、者アルヲ以テナリ、
發得耳氏云ク、敵國ノ人民貨物、戰爭公告ノ時ニ
我カ疆内ニ在ル所ノ者ハ、之ヲ強^{原語}留^{ビテ}スル
可能ハス蓋シ同氏ノ論スル此規則ハ、始戰ノ時
現ニ我カ疆内ニ在ル敵人及ヒ敵貨ヲ指シテ言
フノミ、然レ此到底他ノ所^所有品負債ニモ均シク
之ヲ及ホス事ヲ得可シ、若シ夫レ國君ノ^命命ナ

レト虽モ、戰爭ノ廉ノミヲ以テ、敵國ノ貨物ヲ没
収スル事ヲ得レハ、何ソ其^其貨主ノ現在スルヲ以
テ、戰權ニ於テ之ヲ免ルスノ理アル可カラス、又
公信ニ託シテ、平時我カ疆内ニ置キ安全ヲ計ル
敵貨ハ、更ニ他人ニ託スヨリ、一層信用スルニ足
ルヲ論フ會スル能ハサルニ至ル可シ、現今ノ規
則ニ於テハ、我カ国内ニ在ル敵國ノ貨物ハ、始戰
ノ時、直キニ之ヲ没収ス可カラス、大抵貿易ノ約
定ニ在テ、戰時ニ臨ニテ如此キ貨物ハ、互ニ收回
スルノ條目ヲ預メ確定シ置クヲ常例トス

此規則ハ、獨リ始戦ノ廉ノ之ヲ以テ、敵貨ヲ政府ニ没収スルヲ得ルノ論ト全ク相及ス、即チ是レ戦ヒハ敵貨ヲ没収スルノ權アリト虽モ、王命ニアラサレハ、穢リニ没収スルヲ能ハサル事ヲ論スル者ノ説ニシテ、現今行フ所ノ規則トナス、米國ノ政体ハ、專ラ仁慈ヲ旨トシテ交通スルナリ、此規則ハ一般文明國ニ行ハレシ後ニ制立スルモノニシテ、抑モ米國ノ政体ヲ按スルニ、戦争ノ公告ヲ為スト虽モ、他國ニ未タ有ラサル様ノ事ヲ容易ニ許ルストナク、敵ノ貨物ニ付テハ、其

我ニ對シ行フ規則ヲ視テ、我政府ヨリモ敵ニ對シテ同一ノ規則ヲ行ヘ、其貨物ノ自由ヲ妨害スルヲ容サ、ルナリ、

此一般ノ通理ハ、嚴ニ米國建國法ノ文中ニ顯ハル、所ヲ以テ、高ト能ク定ムルニ足ル可シ、即チ其辭ニ曰ク、凡ソ戦争ノ公告ハ、唯兩國ヲシテ互ニ敵視セシメ、戦ヒニ於テ聽ル所ノ權利ヲ得ヒシムルノ事ニテ、必スレモ公告ノ力ニ依テ敵貨ヲ奪領スルカ如キ戰權ヲ與フルニ非ス、通例敵國政府ノ處置ニ因テ生スル所ノ事ハ、能ク互

ニ国カヲ算定シテ、我又之ニ報ユルニアルナリ、
米國公會原語コンハ、唯戦争ヲ公告シ、報復免状
ヲ允許シ、并ニ海陸捕撃ノ規則ヲ設クルノ權ア
ルノミトス、

此文意ヲ尚ホ箇ニ縮ムル時ハ、其海陸ノ捕撃ニ
管スル規則ヲ設クルノ權ハ、獨リ米國疆外ノ捕
撃ヲ指シテ云フ、此規則ヲ疆内ニ在ル敵貨ニ施
及スル時ハ、裁廳ニ於テハ、之ヲ戦争公告ノ為メ
ニ非ル所ノ特別ノ權威ヲ、公會ニ准ルニタルモ
ノト考定ス、

公會ノ定例ニ屢例ヲ擧ケテ、戦争ノ公告
テハ、必ス常時我疆内ニ在ル敵人敵貨ニ對シテ
ノ處置ヲ准ルスニ非ル事ヲ論定セリ、

戰權ハ、敵人敵貨共ニ異ナルヲナシ、故ニ若シ戰
争ノ公告ヲ以テ、我國內ニ在ル敵人ニ就テ、處置
スル法律ノ准ルサ、ル時ハ、又我國內ニ在ル敵
貨ニ就テモ異ナルヲ味ヒ、夫レ定例ニ於テ、大統
領ハ、敵人ニ就テ十分處置スルノ權威アルト虽
モ、戦争公告ノ力ニ依テ、此權威ヲ擅ニスルヲ能
ハス、敵國ノ俘虜ヲ安全保護スルノ定例ニ就テ

モ亦前ニ異ナルヲナシ、
又敵国ト通商ヲ禁スルノ定例ニ曰ク、米国大統領ハ、敵人ト禁商ノ令ヲ出シテ、後六ヶ月間ニ、當時米国内ニ在ル英人所屬ノ船舶物貨ヲ、安全ニ運送ス可キ免状ヲ與フルノ權ヲ有スル事、此法律ノ語味ヲ考フルニ、米国立法局ニ於テハ、英国人民ノ貨物ヲ、戦争公告ノ為メ、米国ノ有トナスヲ容ルサ、ルヲ判然タリ、且ツ戦時大統領ニ與ヘラルハ、ノ權威ハ、預メ議定シテ有セサル者ト考フ可シ、

戦争ノ公告ノニテハ、米国疆内ニ在ル敵貨ヲ没収スルヲ准ルサ、ル事ハ、全ク疑ノ容レサル所トス、蓋シ英国ニ對シテ戦争ノ公告ヲ為ス、米国公會ノ建国法ニ於テ、之ヲ准スノ言アル可キヤ、夫レ兩國始戦ノ後、此建国法ニ因テ、大統領ニ與フルノ權威ハ、合衆国ノ海陸軍ヲ専用スルヲ得ル事、師ヲ興スヲ得ル事、英国政府及ヒ其人民所有ノ船舶貨物ニ對シテ、私ニ艦装セル戦艦ニ、報復免状及ヒ一般ノ強償免状ヲ出スヲ得ル事、

此強償ハ、戦争公告ノ後、合衆国疆内ニ在ル敵貨ニ對シテ行フヲ得ルト虽モ、然レモ公會ノ心意、茲ニ帰スレハ之ヲ准ルニ、戦争公告ノ為メ、国民此意ヲ陳ル時ハ之ヲ准サズ、若シ夫レ合衆国ノ為メニ、陸上ニテ見出シタル敵貨、或ハ我カ合衆国人民ノ保守スル我江湾ニ漂流スル敵貨没収ノ為メ、代言人裁判ヲ開ク時ハ、代言人ハ報復免状及ヒ強償免状ノ權威ヲ以テ、事ヲ處スルニ非ス、又私有ノ戦艦ニ與ヘラレタル如此キ免状ノ權威ヲ以テスルニ非

論スルヲ要セサル可シ、報復免状及ヒ在物ニ就テノ定例ニ如此キ捕拏ヲ聽ルス事ナシ、爰ニ敵貨捕拏ノ事ニ付、他ニ公會ノ定例ナキヲ以テ考フルニ、米国立法局ニ於テハ、戦争公告ノ時、合衆国疆内ノ敵貨ヲ没収スルヲナク、又下等裁廳ニ於テ、言渡シタル没収ノ裁判言渡シヲ助クルヲ無キヲ証スルニ足ル可シ、然レモ此事ニ付、又他ニ考フ可キ意見アリ、即チ戦法ヲ施スニ、近世ノ公法ニ依テ没収不可キ萬貨ヲ、施法官^原エキセル^キ或ハ之ヲ捕拏シ、裁廳或ハ之ヲ没収

スル事アリ、縦令ヒ近世ノ習慣ニ依レハ、其没収
ス可カラサル敵貨ヲ没収スルヲ聽ルス時ハ、
立法局ノ定例アラサルヲ得スト、虽モ時トシテ
又止ムヲ得サル時ハ、之ヲ行フアリ、
此論ハ近世ノ習慣ニ基ク所ニシテ、獨リ王權ニ
依ラス、直チニ其貨物ニ當テ處置スルノ規則ヲ
成スニ由ル所トス、然レモ此處置ハ、其宜シキヲ
得ルニ非ス、近世ノ習慣ハ、全ク国君ノ意ニ從テ、
或ハ捕拏スル物アリ、或ハ捕拏セサル物アリ、此
規則ハ、仁義習明ニ因ル他ノ諸例ノ如ク、全ク王

權ニ歸スル所ニシテ、一君之ヲ是トスルモ、一君
亦之ヲ非トマルヲ得ヘシ、
此規則ハ常ニ變スヘキ者ニシテ、法律ノ必ス變
易ス可カラサル如キ規則ニハ非ス、事情ニ從テ、
境ヘス變化スルヲ得可シ、合衆國ノ位置ノ如
キハ、通商國大ニシテ、其疆内ニ有ル所ノ所有品夥
多アルヲ以テ、若シ一旦他國ト戰端ヲ開ク時ハ、
合衆國疆内ニ在ル敵貨ノ處置ニ就テ、先ツ法律
ニ藉ルヨリモ、多ク臨機ノ處置ニ關係セサルヲ
得ス、我敵國ノ所有品ニ對シテ施ス所ノ規則ハ、

敵モ亦我國民ノ所有品ニ對シテ之ヲ行フ可シ
其他時ノ勢ヒニ從テ施ス處置ノ如ク、唯法律ニ
從テノニ施行スルノ處置ヨリモ、適意ニ変スル
ノ處置ヲ用エルヲ貴フ、故ニ施法原語キエノ處
置ヨリモ、立法局ノ處置ヲ適當トス、夫レ敵貨ヲ
沒收スルノ權ハ立法局ニ在リ、立法局ハ戰爭公
告ノ時、未タ我國內ニ在ル敵貨ヲ沒收スルノ意
ヲ公布セシメナシ、

第三百五条。凡ソ始戰ノ前、敵人ニ拂フ可キ負
債ニ付テ、英國ノ法律ハ、海軍律ニ依ルヨリモ却

テ隨意有益ノ處置ヲ貴フ、實ニ英國海軍ノ最モ
強大ナル者ニシテ、戰爭確定ノ公告前捕拏スル
敵貨ヲ沒收スルノ權ヲ施シテ利アリトス、然レ
凡一國若シ他ノ通商國ト交リ、廣ク國財ヲ散布
シテ他國ノ債主トナル時ハ、戰時敵國ニ拂フ可
キ負債ヲ沒收シテ必ス益ナシトス、是レ概テ先
例ヲ窺フニ、若シ敵國我ニ報エルニ同一ノ方法
ヲ用ユル時ハ、其大少ヲ較ルニ我ニ於テ大ニ損
害タルヲ免リス、故ニ如此キ負債ヲ沒收シ、并ニ
強テ負債ヲ國王ニ還濟セシムルノ權、猶未タ暗

ニ存スルト虽也、現ニ之ヲ施行スルヲ甚タ稀ニ
シテ、債主ヨリ負債ヲ討索スルノ權尚ホ未タ消
スルニ非ス、唯戰時之ヲ延滞スルノコトニテ、債主
復ヒ平和ヲ俟テ十分回復スルノ權アルナリ、
第三百六条 如此キ事ハ、並ニ合衆国ノ法律及
ヒ習慣ニシテ、即チ英尺分立原語「リボリ」ニヤノ戰爭
前、米人ヨリ英人ニ拂フヘキ負債ハ、嚴ニ没収セ
ラル、トナク、兩國平和ニ復スル後チ、債主之ヲ
討索スルノ權全ク回復セリ、合衆国諸州ノ法律
ニテ、英国ノ負債ヲ集括スルノ障碍ハ、一七七

八十三年ノ和睦ニテ取除キタリ、然レモ此議定
尚ホ未タ完カラス、屢債主ノタメニ十分ノ消却
ヲ為スニ至ラサルヲ以テ、終ニ兩國又爭論ヲ生
シ、合衆国政府ヨリ英国ノ債主ニ某ノ金高ヲ拂
テ此論ヲ理メタリ、一七九四年、兩國通商
ノ約定ニ特ニ一款ヲ立テ云ク、兩國戰爭ノタメ
人民互ニ相結ヒタル約定ヲ損害スレハ、其理不
當ニシテ公平ノ處置ニアラス、一國ノ人民ヨリ
一國ノ人民ヘ拂フヘキ負債、或ハ人民互ニ公信
ニ託シテ所有スルノ貨幣、或ハ公私ヲ論セス銀

行ニ託スルノ貨幣等ハ、国戦ノタメ之ヲ捕奪シテ没収スヘカラサル条目ヲ説明セリ、
第三百七条 一千七百九十三年、英佛交戦ノ時、佛国英人ノ負債及ヒ貨物ヲ没収セシカハ、英国政府之ニ徴テ之ヲ行ヒ、一千八百十四年四月、巴里ニ於テ兩國和議ノ時、遂ニ約定ノ条目ヲ増加シ、双方没収ノ例ヲ廢シ、佛国使ヲ遣ハシテ前キニ佛国政府ニテ没収シタル英人貨物ノタメ、其請求ヲ查明セシメ、且ツ一千七百九十二年後引續キ戦争迄、佛国ニテ不当ニ没収セシ負債貨物

ノ損失ヲモ議セシメタリ、蓋シ如斯ク佛国ヨリ損失ヲ強奪セルハ、英国佛国ニ對シテ戦勝ノ權ヲ嚴行スルノ所以ノ原ニシテ、固ヨリ公平ノ處置ト云フヘカラス、但シ之ニ初メ英国ニ於テ、其港内ニアル所ノ物、及ヒ大洋ニテ奪掠スル佛国ノ貨物、並ニ海軍律ニ依テ奪フ所ノ物ハ、兩國平和ニ復スルト虽モ、佛国ノ貨主ニ追還セサルヲ以テナリ、
第三百八条 一千八百七年、英国噶国ト交戦ノ時、戦争公告ノ前、英国ニ於テ其各港及ヒ大洋ニ

アル、噠国ノ船舶貨物ヲ捕拏シ、英国ノ海軍律ニ依テ始戦ノ後之ヲ没収セリ、故ニ噠国政府ニ於テモ、噠人ヨリ英人ニ拂フヘキ各債ヲ捕拏シテ之ヲ噠国政府ノ銀庫ニ收メシムヘキノ令ヲ出シテ之ニ報ヒタリ、此時英国上裁廳ニ於テ、是レ公法ノ通習ニ適ハサルヲ以テ、如斯キ負債ノタメ、英国ニ於テハ之ヲ裁判ノ口實トシテ言防ク可能ハサル事ヲ決定セリ、尔後法家大ニ此通習ヲ非難セシニヨリ、當時行ヒタル法例ノ外、殆ト一百年以上、此權利ヲ行ヒタルノ例ナシ、此説

ノ真箇甚タ疑フヘキニ似タリ、前条既ニ法律ヲ信シテ取結ヒタル負債ト同シク、法律ヲ信シテ得ル所ノ貨物ハ更ニ別異アルトナシ、且ツ負債ヲ没収スル王権ハ、戦時疆内ニ在ル他ノ貨物ヲ没収スル權威ト亦異ナルトナキヲ論シタリ、兩テカ、ラ特ニ国王ノ意存ニ隨フ所ニシテ、公法ノ変スヘカラサルノ規則ニ拘ハラス、其時ノ事情ニ從テ、王意ノ向フ所ニ管係スル所トス、第三百九条 始戦ノ時直ニ顯ル事ノ一ハ、政府ノ許可アルニ非レハ、兩國ノ人民通商交通ヲ

得ル能ハサルヲナリ、曾テセフ一船ノ事件ニ
付テ、斯果得氏之ヲ論レテ云ク、此事英國海上律
ニ依ルニアラス、乃チ公法ノ大理ナリ、賓氏云ク、
是レ法律ノ通理ニシテ、一旦戰ヲ開ク時ハ、自然
ニ兩國ノ通商閉歇スルハ、元ヨリ勢ヒノ然ラレ
ムル所ニシテ、特ニ通商禁戒ノ令_レシト、虽氏、嘗
戰爭ノ公告アルヲ以テ之ヲ禁スルニ足ル、夫レ
戰爭ノ公告ハ、我人氏ヲレテ敵人ヲ攻撃セシメ、
或ハ敵貨ヲ捕撃シ、其他總テ敵國ニ百害ヲナサ
シムルニアルヲ以テ、已ニ通商ノ閉歇スルヲ量

知スルニ足ルヘシ、然レモ、各國通商ノ裨益ト、互
ヒノ需用ヲ要スルトヲ以テ、大抵其通商ニ関ス
ル所ハ、大ニ戦法ヲ寛ニス、故ニ國王其國民ノ便
宜ヲ熟考シテ、戦時ト虽氏、或ハ之ヲ准ルシ、或ハ
之ヲ禁スルヲアリ、夫レ通商國ハ、其交易ニ注意
シテ、需用ニ仰ク他國品ノ多少ニ後テ戦法ヲ定
ム時トシテ、兩國一般ニ通商ヲ准ルスヲアリ、或
ハ時トシテ、餘物ヲ禁シ某ノ物品ヲ限リテ准ル
スヲアリ、或ハ又全ク之ヲ禁スルヲアリ、蓋シ余
之ヲ考フルニ、其一般ニ准ルスモ、又物ヲ定限シ

テ准ルスモ、其之ヲ准ルスニ何レノ方法ヲ用ユ
ルモ、必ス爰ニ裁許カ戦法ノ停止アラサルヲ得
ス、然レハ則チ、両国人民ノ間ニ、一部戦フ者アリ、
一部和スル者アルノ理ナリ、此條例ヲ按スルニ、
是レ和蘭ノ法律ニ出ル所トス、又「ワリシ」氏ハ、本
国ノ船舶或ハ局外国ノ船舶ニテ通商ヲナスニ
拘ハラス、之ヲ佛国ノ法律ニ出ルト云フ、セフ
「ソ」ノ先例ヲ考フルニ、又西班牙^{イスパニヤ}ノ法律ニ出ルト
云フ、但レ熟思スルニ、是レ歐洲概テ一般ノ法律
トスヘシ、

第三百十條 斯果德氏戦時交通ヲ禁スルニ二
理アルヲ論シテ云ク、其一ハ、英国ノ法律政体ニ
在テハ、戦争ヲ公告シ、和議ヲ講スルハ、獨リ其權
国君ニアルノミ、故ニ国君ハ、戦ヲ止ムルノ全權
アルヲ以テ、国君通商ノ便宜ヲ思考シ、一部戦ニ
止マテ、一部通商ヲ准ルスヲ当然トスル時ハ、其
意ニ從テ之ヲ聽ルスノ權アリ、夫レ時アツテ必
交通スルヲ便利トスル事アルヘシ、然レ臣国民
自己ノ商利ヲ量リ、通商ノ便宜ヲ得ニカタメ之
ヲ決スルヲ能ハス、全国一般ノ便益トナルニ非

レハ准サ、ルナリ、其之ヲ准ルニ、其規則ヲ定ム
ルニ至テハ、萬事ヲ廣監シ交通ヲ洞察シテ後チ、
獨リ国君ノ決定ニ出ル所トス、如此キ交通ハ国
君ノ直許アルニアラサレハ、決シテ他ニ之ヲ得
ルノ道ナシトス、若シ夫レ戰時国民敵ト通商
スルノ權利ヲ有レ、或ハ貿易ノ名ニ托シ敵ニ通
シテ他ノ要ヲ求ムル時ハ、因テ起ルノ弊害量ル
ハカラス、但シ戰時ト雖モ、事已ムヲ得サルニ於
テハ、国民ノ安全ヲ任スル政府ノ保護ヲ得テ、兩
国ノ人民交通貿易ヲナスニ至レハ、他ニ損害ア

ルヘキヤ、蓋シ交通ヲ停メテ衆庶ノ損害ヲ生ス
ルニ換エヘカラス、其ニハ、前条ノ条目ヨリ事情
ニ管スルヲ稍ミ少シト雖モ、然レモ一樣一般ニ
受用セラル、ノ通理ニシテ、即チ戰爭国兩國ノ
關係ニ元來有ルヘカラサル交通ヲ禁スルノ一
ニシテ、此国ノ人民彼国ノ人民ト約定ヲ取結ヒ
タルニ、之ヲ誣テ以テ裁判ヲ助クル能ハサルモ
ノヲ云フ、率チ各國ノ法律ニ於テ、外敵ノ性格ヲ
以テ誣スルヲ得ス、亦法師ノ言ヲ以テ之ヲ助
クル能ハサルナリ、約定ヲ遂クル能ハサル国ハ、

之ヲ正然ノ通商国トナス可ラス、若シ約定ヲ取
結フ者、其約定ヲ強行スルヲ能ハス、尚ホ之カタ
メ裁廳へ出ル能ハサルハ、畢竟法律ニ於テ、約
定ヲ取結フ能ハサルノ外、他ニ正証アルヘカラ
ス、如此キ商事ノ約定ノ全ク正當ニ出サルヲ以
テ、法律ノ守護ヲ受ルヲ能ハス、更ニ法律ノ權威
ニ背戾スルノ商事トナス、賓氏ノ書第一卷第六
編ニ論シテ云ク、凡ソ通商ノ正確ナルト商事ヲ
取結ヒタル双方互ニ裁廳ヲ用エルヲ得ルハ、兩
立並持離ルヘカラサル者トス、同氏又云ク、商事

ノ事件ヲ訴フルト、他ノ事件ヲ訴フルト、判然區
別スルヲ能ハサルニ至ルヘシ、蓋シ一度ヒ敵人
ニ事件ヲ訴ルヲ准スルハ、其起由何ニ出ルカ之
ヲ區別スル事難ク、又古來其區別ヲ立テ裁判ヲ
准ルシ、之ヲ行ヒタルヲ見サルナリ、
右ノ規則ニ付キ、斯果得氏、英國戰利裁廳ニ於テ、
裁決セル諸例ヲ挙クルニ、曾テ議院ノ定例ニ依
テ、屢航海律及ヒ他ノ稅則ヲ寬舒ニシ、或ハ政府
議院ノ承諾ニテ、敵国ヨリ來テ貿易スルヲ准ス
ル、其寧内地ノ貿易ニ異ナラスト、屈氏、敵国ニ出

テ貿易スルヲ准サ、ル時モ、或ハ便宜止ムヲ得
キルニ由レハ国民ニ掛ル請求ヲ准ルス時モ、或
ハ未タ戦ハサルノ前積入ル、所ノ船貨ニシテ、
戦争公告ノ後懈テ尚ホ未タ出帆セサル時モ、戦
利裁廳ニ於テハ、總テ嚴法ヲ以テ之ヲ裁決シ、且
以古ノ規則ハ、英國人民ノミナラズ、英ト盟約ノ
国民マテモ、一般互ニ施行スルヲ得ルニ基ク通
理トシテ裁決セリ、以上挙ル所ノ場合ニ於テ、悉
ク交通ヲ准サ、ル事ヲ証レタリ、

同氏ニ從ハ、右各例ノ如キハ、歐羅巴ノ公法及

七、各国ノ国律ニ於テモ、断然敵國ト交通ヲ断ツ
規則ノ通理トス、是レ公法、国法ニ依テ如此ク選
定スル所ニシテ、国王ノ允許アルニアラサレハ、
敵國ト交通ヲ嚴禁ス、又敵人ト約定ヲ取結フニ
ハ、同レク王許ヲ得ルニ非レバ、之ヲ許テ裁判ヲ
得ル能ハサルノ大理ニ歸スル所トス、

第三百十一條、英米近時戦争ノ時、米國人民敵
人トノ交通ニ於テ、米國裁廳亦古ノ規則ヲ用ヒ
タリ、即チ其一例ヲ見ルニ、曾テ米人始戦前、英國
内ニ在テ貨物若干量ヲ買取り、之ヲ其近隣ノ海

島に預托し置キ、始戦ニ及ニテ米人ノ代人船ヲ
雇ヒ其場ニ到リ、之ヲ本国へ運回セントスルノ
途中、米国兵船之ヲ捕拏シ戦利トシテ没収セリ
此時討主原語トシテ之ヲ論シテ云ク、是レ戦争中
ノ商事ニ非ルヲ以テ、没収セラルヘキノ理ナシ、
戦時米国ノ人民ハ、何人モ戦争前買得テ敵国ニ
置ク所ノ貨物ハ、戦ニ及ニテ之ヲ本国ニ收回ス
ルノ權ヲ有スルヲ辯論セシカ、米国上裁廳之
ヲ断決シテ曰ク、戦權ヲ寬宥ニシテ近世ノ習慣
益々温和順良ニ出ルト虽也、此事件ニ付テハ、更

ニ茲ニ關係スルヲナシ、夫レ戦争国互ニ国民ノ
交通ヲ許ルスヨリ生スル所ノ弊害量ルヘカラ
ス、是レ各国ノ能ク知ル所トス、一国ハ尚ホ一船
船ノ如シ、之ニ乗ル者皆運命ヲ俱ニセサル可カ
ラス、故ニ戦時ニ在テハ、一国ノ人民敵国ノ人民
ヲ盡ク敵視セサル可カラス、是レ即チ米国民
ノ義務ナリ、米国ノ人民ニシテ此義務ヲ破ルル
ハ、蓋シ因テ生スル所ノ弊害如何ソヤ、戦利原語
トシテ法律ハ、抑モ公法ノ一部トス、此法律ニ依テ
敵品ト見ルノ模様ハ、其貿易ヲ行フ者ノ模様ニ

管係セス、全ク通商ニ由ル所トス、捕者敵貨ヲ没
收スルハ、敵国ノ貨物及ヒ中立国ニ非ル外国
ノ通商ニ於テ見出ス所ノ敵貨モ一様ニ之ヲ看
視ス、但レ當時ノ事件ハ、全ク米国人ノ人民敵国ト
通商ヲナシタルコトアルヘシ、是ヲ以テ其貨物ヲ
敵国ニテ積入ル、所ノ者ト同一ニ之ヲ算入セ
リ、又米国人ノ貨物ヲ、如此ク戦利トナシテ没収
スルニ、他ニ亦思考スヘキ事アリ、凡ソ敵国ヨリ
出ル所ノ諸貨ハ、盡ク之ヲ敵貨トナス、故ニ討主
ノ言ヒ前ヲ拒防スルハ、當ニ然ラシムル所トス、

又若シ討主米人ナレハ、其己レノ利ヲ訴フル所
ハ、即チ自カラ其犯罪ヲ發露セシムルニ當レリ、
此犯罪トハ、国法ニ於テ其請求ヲ討ムルノ權利
ナカラシムルニ在レハナリ、又此論ハ、常一理ニ
因ルニ非ス、蓋シ當時各通商国ノ最モ文明ナル
習慣ニシテ、實ニ裁廳當時ノ公事裁決ニ於テハ、
英米分立戦時ノ際設立スル、戦利控訴廳ノ記事
ニ顯ル、諸蹟ヲ見ルニ、是レ裁廳ノ定律トシテ
論スル所ナレハ、弥々以テ信用シテ後チ断決ス
ル所トス、又此規則ハ、米英分立ノ戦争前英国ノ

法律タリレリ疑フ可カラス故ニ之ヲ合衆国ノ
政体上ニ依リ合衆国ノ裁廳へ讓與スル海軍律
及ヒ海上律ノ一部分トス此事件ニ於テ通商ハ
戦利ノ法律ニ依テ考フレハ全ク捕拏没収ニ属
ス可キカ是ハ其通商ト云フ字義ニ關係スル所
ナリ戦利法律ニ於テ此語ノ字義ヲ約定取結ヒ
テ商事トスル時ハ必ス當時ノ事件ハ此規則ヲ
以テ罰スヘキ者ニ非ルヘシ然レモ此規則ノ眼
目トスル趣旨ハ戦争国两国人民ノ交通各信ヲ
断ツニアリ故ニ此犯罪ヲ定ムルニ就テ約定ノ

有無ヲ論スルニ及ハス此規則ニ對スレハ實ニ
交通ハ其犯罪タルヲ免レサルナリ若レ夫レ敵
国ト通商スルノ語ヲ更ニ之ヲ交通トシテ考フ
ル時ハ此事件ニテ一モ通商ト爲スヘキノ言ヲ
發スル能ハサルナリ此ニ由テ之ヲ觀ルニ米國
ノ人民交戦ノ時其貨物ヲ自國ニ運送スルノ權
下ル可キヤ否ヤ刺ヘ討主敵國ニ行キテ其貨物
運回ノ爲メ戦時自國ヲ離レテ敵國ニ涉ルノ權
アル可キヤ決レテアル可カラサルナリ故ニ其
精采ニ於テモ又悞ニ何等ノ飾言ヲ用エト虽モ

決テ救ルニ可カラサル意ニ出ル事件トス、
第三百二条 交戦ノ時、海外ニ在ルノ船舶十
分其戦アルヲ知リ、別ニ危難アルニ非シテ、擅
ニ船路ヲ変シテ敵港ニ入津シ、貿易ヲ為ス者ハ、
亦没収セラル、ヲ免レス、如此キ所為ヲ聽ルス
時ハ、元ヨリ敵国ト通商ヲ禁スル事ハ、益ナシト
ス、又戦時中續テ敵国ニ在テ貿易ヲ為シ、帰路貨
物ヲ積載スル時ハ、故意ニ敵港ニ向ケ出船スル
ヲ以テ之ヲ論ス、又若シ船舶ノ行ク定地アルニ
止ムコトヲ得ス兵カヲ以テ敵地ノ一方ニ送ラル

、ノ模様ヲ述ルト虽長、亦決レテ之ヲ免スコトナ
レ、但シ此船舶ノ行状ニ至テハ、前条ノ「セラピツ
止船ノ一事ヨリモ、裁廳ニ對レテ稍言防クコトヲ
得ルナリ、
第三百十三条 嘗テ英国ニ在テ米国人ノ代
人^{原語}ニ戦争前某ノ物貨ヲ買取り、之ヲ戦争公
告後殆^シト一年ヲ經テ運回セシニ、亦之ヲ没収
セラレタリ、蓋シ戦前敵国ニ在テ買得タル物貨
ヲ交戦ノ時ニ當テ之ヲ敵国ヨリ收回スルノ權
ヲ得トスル時ハ、交戦ヲ知ル後、相當ノ時間ヲ以

夫必ス急行勉勵シテ運輸セサルヘカラス夫レ
戦前買得タルトノ言ニ托シテ始戦ノ後久シキ
ヲ經テ之ヲ敵国ヨリ收回スルヲ准ルス時ハ
其弊害恐ルヘク遂ニ敵人ト不正ノ通商ヲ招ク
ニ至ルヘシ必ス此收回ノ權利ハ如此ク廣ク及
ホスヘキモノニアラサルナリ
第三百十四条 又曾テ米国人所有ノ船舶戦前
貨物ヲ積載シテ英国「リブルホール」港及ヒ歐羅
巴ノ北方ニ赴キ夫ヨリ本国合衆国ニ帰着セシ
一例アリ抑モ此行ハ最初米船「リブルホール」ニ

到リテ其積ム所ノ貨物ヲ卸シ「ホール」ニ於テ他
品ヲ積入レ一千八百十二年第六月八日魯国ヘ
「マホガニ」樹ヲ輸出シテ歸路英国ニ某ノ貨物
ヲ積入レテ輸入スヘキノ免状ヲ英国ヨリ得テ
魯国「ベートルビユルグ」ニ赴キタリ此時魯都ニ
着シ米船初メテ米英戦争アルヲ知ルト虽モ
尚ホ英国商人ニ積送ルヘキ貨物ヲ積載シテ龍
動ニ向テ出帆シ終ニ其年ハ瑞典国ニ於テ冬ヲ
凌キ翌一千八百十三年ノ春英国軍艦ノ護衛ヲ
得ル英國ニ歸港シテ其貨ヲ渡シ夫ヨリ空船ニ

テ英國ノ免狀ヲ取り、漸ク本國合衆國ニ歸ラニ
トスル所、途中ホストニ港燈臺ノ近傍ニ於テ、米
艦ノ為ニ捕拏セラレタリ、此時裁廳前条ノ裁決
ニ徴ヒ断決シテ云ク、抑モ此事件ニ付、米船交戦
アルヲ十分了知シテ後、尚ホ貨物ヲ積載シテ魯
國ヨリ敵地英國ニ航スルノ儀ニ甘、若シ此海旅
中捕拏セラレ、時ハ、船舶船貨俱ニ戦利トシテ
没収ヲ受クヘキ敵國トノ通商トナサ、ルノ理
アルヘカラス、蓋シ此海旅ヲ企テタルハ、船長魯
ノ都府ニ到リテ、其船貨ヨリ己レノ費用ヲ拂ハ

サレハ能ハサルユヘ、止ムヲ得サル場合ヨリ起
リ、且又船長ノ辨スル如ク、魯都在苗ノ合衆國公
使ヨリ、如此キ海旅ハ更ニ國法ヲ破ルニ非ルヘ
キノ説ヲ得ルニ出ル所ニテ、縱令ヒ此趣意真ナ
ル時ハ、更ニ難事件ナリト虽モ、然レモ裁廳ニ於
テ、此廉ヲ以テ裁決ノ基本トナシ、赦宥スルノ理
アルヘカラサルヲニ決シタリ、于時討主原語マ
止ノ、代言人、此議ヲ不當ト思量シ、尚嚴シノ辨シ
テ云ク、船舶ノ捕拏ハ、敵國ニ雇使セラレ、トハ
ト、其犯罪ノ海旅ヲ終リ、且ツ空船ニテ歸路

入途中ノ事ナレバ、敢テ犯罪中捕拏セラル、者
ニ非ス、若シ犯罪ノ航海中捕拏セラル、時ハ、猶
ホ犯罪中トシテ没収セラル、モ聊カ論スル所
ナレト虽モ、其海旅全ク敵港ニ在テ終リ、更ニ改
メテ帰国ノ新旅ヲ催セシ途中捕拏セラレタル
ナリ、然レモ裁廳之ヲ論シテ云ク、爰ニ外航内航
ト分テ其海旅ヲ區別スルト虽モ、其内航ノ止ル
処、魯国京城ヨリ合衆国ニ到ルニ在ルヲ免レス、
此海旅ノ續ク所ハ、船長中間ノ貿易ヲ行フタメ、
自ラ擅ニ船路ヲ変シテ他ニ出ルノ故ヲ以テ、此

海旅ノ續ク所ヲ、別ノ新旅トシテ破ルヘカラス、
是ヲ以テ中立国ヨリ敵国ニ到ルヲ、更ニ別ノ新
旅ト做サ、ルノ論定マルヲ討主之ニ屈服シテ、
全ク帰路ノ序テニ企ツル所トセリ、即チ概シテ
中立国ヨリ敵国ヲ經テノ航旅ニシテ、此航海中
戦利トシテ没収ヲ受ヘキ行状アリテ捕拏セラ
ル、時ハ、之ヲ犯罪中捕拏セラル、所ノ者トセ
ラレタリ、

第三百十五條 前條論スル所ニ依ルニ、交通ハ
公法國法ニ於テ如何ニ歸スヘキヤヲ論シタリ、

其法律ノ處置ヲ避ケ其罰ヲ逃レントスルニ愿
術ヲ施スト虽其法律ノ確固変スヘカラサル
嚴法ニ因テ盡ク破壊ス外見ニハ其規則外ノ模
様アルモ却テ益々之ヲ確實堅牢ニス故ニ中立
国ト通商スルノ模様アルモ或ハ免状アルノ模
様アルモ或ハ通商ハ敵国ト交戦終リテ後ノ模
様アルモ此等ノ事悉ク規則外ト虽其亦此法律
ヲ以テ之ヲ處置ス允リ敵国ト交通ヲ正寧ニス
ルハ必ス政府ノ免状アラサルヲ得サルナリ
第三百十六條 戦争国ノ人民敵国ト通商スル

時ハ其自国ノ戦利裁廳ニ於テ之ヲ處罰スルノ
ミナラス倘レ同盟レテ戦フ時其同盟国ノ人民
敵国ト通商スル時ハ同レク其同盟国ノ戦利裁
廳ニ於テ其貨物ヲ没収ス此規則ハ前条ニ云所
ノ戦時敵国ト交通スルヲ禁スル例ニ依テ成
ル所ニレテ本国ノ法律万国公法及ヒ同盟国互
ヒノ約定トニ依テ其国民ノ通商ヲ禁スルノ趣
意ニ基ク所トス尚ホ本国ノ民国君ノ許可ヲ得
テ敵国ト通商スルヲ得ル如ク又同盟レテ戦フ
時ハ同盟国協議ノ許可ヲ得ルニ非レハ通商

ル一能ハサルナリ若レ一国ノミ戦フカ如キ
他国ヲ害スルヲナク、国君獨リ其国民ニ准ルス
ヲ得ルト、虽レ同盟協力以テ敵国ト戦フカ如キ
ハ、同盟国ノ何レモ互ニノ目的ヲ害スル如キ所
為ハアル可カラサルノ盟約アラサル可カラス
夫レ一国若シ其民ニ敵人ト通商スルヲ准ルス
時ハ、其害素ヨリ知ルヘキナリ、故ニ同盟国何レ
ノ戦利裁廢ニ於テモ、其友国ニ於テ其国民ニ通
商ヲ准ルニタルトノ言ヲ陳テ、我カ通商ノ責ヲ
免ル、一能ハス、必ス其事一般ノ戦争ニ妨碍ナ

キカ、或ハ他ノ同盟国ノ正許アルカヲ証セスニ
ハアラサルナリ、

第三百十七条 又公敵ト貿易交通ヲ禁スル所
以ニハ、戦際敵人ト私ニ契約ヲ結フヲ不正トス
ルニ因テナリ、即チ敵貨ノ貿易ニ請合証昏ヲ出
ス事、兩國人民ノ間ニ為替手形ヲ出ス事、敵国ニ
銀貨紙幣ヲ送ル事、或ハ公告後敵人ト商社ヲ結
ビ、或ハ公告前既ニ在ル所ノ商社ニ加ハル事等、
此類ハ皆此規則ニ違反スル者トス、但シ其他ノ
契約ハ、只戦時延滞シテ再ヒ討索スルノ權アリ、

ト臣氏其在来ノ商社ハ戦争ニ至レハ即チ解放
セラル、モノトス

第三百十八条 「クロレユス」氏書ヲ著ハシ其第
三卷第二編ニ論シテ曰ク、一國害ヲ受ル時之ヲ
當時其國遷居ノ他人ニ及ホシテ其貨物ヲ捕拏
スルハ公法ニ因テ之ヲ見レハ、獨リ其國民及ヒ
他國ヨリ遷居スル者ヲ論セス、常ニ其疆内ニ在
ル者ノ貨物ハ悉ク之ヲ捕拏シテ強償ヲ行フ
ヲ得、唯暫時其國ノ寓客トナル者ハ之ヲ許ル
ノニ是レ強償ハ、元來公債ヲ拂ハシムル為メニ

課スル賦金ノ一種タルヲ以テ、法律ヲ守リテ暫
時其國ニ在ル者ニ賦スルニ非ス、即チ別國ニ至
ル通行ノ使臣及ヒ其貨物ハ捕拏スルヲ得スト
臣氏然レハ他國ヨリ敵國ニ遣ル使節ト貨物ト
ニ至テハ之ヲ免ルス可カラサルナリ又同昏ノ
第四編ニ所謂正戰ニテ敵人ヲ死傷セシムルノ
權ヲ論シテ云ク、此權利ハ獨リ敵人兵仗ヲ帶ヒ
或ハ戰主ノ附後ニ及フノミナラス、尚ホ何人ヲ
論セス敵國ニ在ル方人ニ及ホスヲ得ルナリ、
寧ニ當時敵國ニ在ル別國ノ人民モ、敵對ノ意ヲ

ラニテ患フルカ故ニ一般ノ戦争ニ在テハ此權
利別國ノ人民ニ及ホスモ亦是レ理ナシト云フ
可カラズ蓋シ戦争ト強償トニ付テ別國ノ人民
ニ對シ爰ニ區別スル所アル可キヤ嚮キニ論ス
ル如ク此強償ハ國債ノ為メ敵國ノ人民ヨリ拂
ハシムル負金ノ一種トス

第三百十九條 バルベツツ氏右ノ諸説ヲ批
評シテ曰ク故人ゴツシエス氏ハグロシエス氏
ノ昏ニ就キ此論ヲ説テ爰ニ前條挙クルノ區別
アル可カラス又戰時歸國ヲ容ルサレサル外國

人ハ一同之ヲ敵國一味ノ者ト做シ總テ敵人ノ
處置ヲ行フトテ得ルト論レタリシカ後キ其誤
解セシヲ掩ハンカ為メ尚ホ其敵國ニ迂住セル
外國人ハ更ニ一時敵國ヲ經過シ或ハ病ニ因テ
滞在シ或ハ其他止ムヲ得サル事故ニ因テ滞在
スル外國人ト區別アルトテ論レタリ然レモ是
レ同氏ハ全クグロシエス氏ノ真意ヲ了解セサ
ルヨリ出ル批論ニシテ其書ノ次條ニグロシエ
ス氏既ニ判然之ヲ區別スルノ論アリ即チ同氏
ハ其暫留スル外國人ト既ニグロシエス氏モ論

スル如ク敵国ニ常住スル外国人ト元ヨリ區別
アル所ニシテ其強償ヲ行フニ至テハ其常住ス
ル者ニハ之ヲ行フヲ准ルニ又一時通行ノ外
国人或ハ一時暫任ノ外国人ニハ之ヲ施及スル
ヲ准サハルヲ明解セリ是レ先キニ「コツレユ
」氏ハ蓋シ「グロシユ」氏ノ真論ヲ誤解スル所
トス

凡ソ人其本国政府ニ對シテ盡ス可キ義務ヲ論
セス爰ニ一國ノ人民平時ニ在テハ商法ノ為メ
他國ノ人民トアルヲ得又他國ニ遷居シテ其

商權ヲ得ルハ必ス妨ケサル所トス然レモ若シ
一旦事アルニ臨ニテ其本国ト遷國トノ間ニ戰
端ヲ開ク時ハ其敵國ノ本民ト一様ニ貨物ノ強
償ヲ蒙フルヲ免レサルナリ

第三百二十條 他國ニ遷居シテ之ヲ常住原語
ト定メ戰時強償ヲ免レサラシムルニハ何
ヲ以テ常住トスルヤ法家未ク之ヲ詳細論定ス
ルヲ能ハス故ニ今英國戰利裁廳ニ於テ決スル
所ノ先例ヲ尤ニ援テ以テ稍其欠ヲ補フノニ戰
利裁廳ニ於テ決スル所ハ縱令ヒ中立國ノ人民

ニ對シテハ、苛法ヲ用ヒサルモ、戰際英國人民ノ
他國ニ移住スル者ニ對シテハ、極メテ寛法ヲ用
ヒサルナリ。

第三百二十一条 嘗テ英國水師提督「ロドニー」
氏和蘭ノ属地「セント、イユスタチユス」島ヲ破テ
占據セシ時、一千七百八十五年、英國戰利裁廳ノ
長官「カムデン」氏之ヲ裁決シ論レテ云ク、若シ英
人他國人謁見ノ為メ、或ハ健康游旅ノ為メ、或ハ
商事取極メノ為メ、其他總テ如此キ事柄ニテ外
國ニ在ル時、戰時ニ及ニテ其貨物ヲ捕拏スル

ハ、之ヲ容易ニ行フ可カラス、然レモ如此キ摸稜
アラサレハ、之ヲ常住ノ外人ト考定ス、夫レ當時
「イユスタチユス」島ノ事件ニ付、其島嶼在住ノ外
國人ヲ見ルニ、總テ常住ノ外国人ト做スノ外、
ル可カラズ、其人既ニ其地ニ迁居シ、其産ヲ興シ、
其業ヲ営ミ、其國ニ利シ、其保護ヲ受ケ、且ツ戰時
ニ雖モ、仍ホ其地ニ在テ本民ト一様軍費ヲ出シ
タルニ於テハ、全ク本民ト同ク、其貨物ヲ還附ス
ルノ理アル可カラサルナリ。

第三百二十二条 斯果得氏云ク、凡ソ外国人ノ

遷住スル者ヲ常住ト定ムルニハ、時間ノ長短ニ
後テ多クハ之ヲ決定ス、若シ夫レ外国人特別ノ
主意アリテ偶々来ル時ハ、之ヲ常住ノ外国人ト
称ス可カラス然レモ是レ自テ定限アラサルヲ
得サル所ニシテ、其時ノ暫久ト其事業トヲ以
テ宜レク之ヲ定ム可シ、其元来ノ主意ニ基テ自
然ニ居ヲ占メ、遂ニ久居シテ常住ノ遷民トナル
者アリ、故ニ如此キ久住ノ遷民ハ、裁廳ニ出テ元
来ノ特意アリテ来ルヲ言陳ルヲ能ハス又如此
キ場合ニ在テハ、元来ノ主意ヨリモ漸々他意混

和シテ、終ニ其地ニ在テ其国民同様ノ性格ヲ具
フル者ト決定ス、若シ一人戦時、或ハ戦前某ノ戦
争国ニ来ル時ハ、直チニ其国民ノ性格ヲ取ラシ
ム可カラス、且ツ之ニ相當ノ時間ヲ與ヘテ其難
ヲ適レシムルハ、固ヨリ至理當然ノ事トス、然レ
モ若シ戦際久シク其国ニ滞在シテ、或ハ軍費ヲ
拂ヒ、或ハ国力ヲ助クル等ノ方策ヲ用ユル時ハ、
我カ戦權ヲ施スニ對シ、暫住ノ主意ヲ陳テ之ヲ
免ル、ヲ能ハサルナリ、若シ之ヲ演テ其免ル、
ヲ得セシムレハ、久住ノ本意ナルモ欺テ免ル

、トヲ得可ク、更ニ其偽欺ヲ防クノ道無キニ至
ル可シ、然レハ則チ爰ニ其遁辭ヲ防クノ時期無
ル可カラズ、預メ規則ヲ設テ此時期ヲ定ムル
能ハスト、虽モ亦必ス其規則アラサルトヲ得ス、
其時ヲ定ムルニハ、某ノ事業ヲ作スニ某ノ時間
ヲ要シ、其時間ヲ以テ迂居常住ヲ決スルト能ハ
スト、虽モ此事業ヲ仍ホ大時間ニ配ル時ハ、遂ニ
又常住トナルニ至ル可シ、故ニ事業ト時間トヲ
宜レク比較シテ以テ之ヲ決定ス、蓋シ其事業ハ
何タルヲ問ハス、一二事ヲ除クノ外、唯時間ノ長

短ヲ以テ常住ヲ定ムルト能ハサルノ理、アル可
カラス、

第三百二十三條 一千八百年「インヂア」ニ于
テ船ノ事件ニ付テノ裁決ハ、曾テ英國ニ迂居
スル米人「ジョンソン」氏ナル者、東印度ノ通商ヲ
為シタリ、當時印度ノ通商ハ、英國人民ニ禁止ス
ル所ナリシレカ、一十七百九十四年、英米通商ノ約
定ニ因テ、米人ニ此地方ノ通商ヲ准ルシタリ、于
時米船歸路、英港ニ來ル時、不正ノ通商トシテ、英
國ノ為メニ捕奪セラレタリ、斯果得氏之ヲ斷シ

テ云ク「ジョーンソン」氏ノ船舶捕撃セラル、ノ時
ハ、同氏既ニ英国ヲ離レタル後ニシテ、之ヲ英商
ト做スカラス、故ニ其船舶ヲ還附ス可キ事ニ
決定セリ且ツ論シテ曰ク、夫レ「ジョーンソン」氏ヲ
英商トナス所以ノ者ハ、唯英国ニ在任スル間ノ
ニ、英国ノ性格ヲ得ル者ニシテ、既ニ英国ヲ去テ
本国ニ轉シ、再ヒ本性ニ復セントスルノ意アル
ニ於テハ、其帰途ト虽モ、已ニ之ヲ米人ト看做シ、
迂任ニ因テ得ル所ノ性格ハ、全ク消却ス、是レ此
性格ハ、實ニ一時得ル所ノ者ニシテ、既ニ再ヒ英

国ニ帰任スルノ意ナク、其国ヲ離ル、ニ至レハ、
此ヲ其性格分界ノ期トナス可シ、
第三百二十四条 本国人タルノ性格ハ、之ヲ元
来他国人ノ来ツテ其国ノ性格ヲ得ルニ比スレ
ハ、其本名ニ復スルヲ更ニ容易ナリトス、故ニ佛
人アリ合衆国ニ迂任シテ殆ント合衆国ニ帰化
セシカ、既ニ去テ佛国ノ属地「セント、ドミンゴ」島
ニ歸リテ其土産ヲ積出シタリ、此時英佛戦争中
タルヲ以テ、其本国佛国ニ到ラントセシ時、英航
之ヲ捕撃シテ之ヲ英国海軍裁判所ニ於テ没収

セリ、

「インギアーン、千一〇船ノ事件ヲ援テ討主ノ代
言人某「ヂユチリ」氏ノ事件ヲ述ルニ、此事ハ縱令
ハ將ニ出帆セシトスル時未ダ敵国ニ在リシカ、
其貨物ノ還附ヲ得シ一事ナリ、然レモ此事件ニ
廿一千八百年控訴長官ノ裁決ヲ「ロビンソン」氏
ヨリ傳ヘ聞クニハ其貨物ハ捕拏ヲ受ル時ノ模
様ニ從テ或ハ没取セラレタル物アリ、或ハ還附
セラレタル物アリトス、即チ此裁決ハ、一千八百
三年控訴長官ノ前ニ控テ「ハルモニ」船ノ事件

ニ付「ニツコー」氏ニ由テ殊ニ委シク傳フル言
ト同一ノ事ニシテ、即チ今左ニ「ニツコー」氏之
ヲ説テ云ク、抑モ「ヂユチリ」ツノ事件ニ付、同氏
ハ一千七百九十三年六月下旬歐羅巴ニ来リシ
カ、當時通商ノ景況甚タ穩カナラス、同氏夫ヨリ
和蘭ニ到リシ時ハ、和蘭英國ノ間平穩無事ノ時
ナリ、後チ佛軍來テ和蘭ニ占據ス、同氏其地ニ在
テ、居所ヲ定メス、商舖ヲ有セス、亦商事ノ取引約
定等モ專ラトセス、唯一商賈ヲ傭使シテ之ニ口
錢ヲ拂ヒ、己レノ貨物ヲ賣却セシメタリ、然ルニ

佛人、和蘭ニ入ルヲ以テ、英米和蘭ニ管係スル負債ニ甘何レモ憂慮疑惑ヲ抱クニ因リ、同氏モ此期ニ至リ進退如何ノ處置ヲ知ランカ爲メ、一千七百九十四年、之ヲ米國ノ公使「アダムス」氏ニ尋ヌル所、即チ先ツ通行免狀ヲ得ル迄テ其地ニ在ル可キノ沙汰ヲ得テ、同年ノ末迄テ其地ニ滯留シ、遂ニ商事ヲ纏メテ帰國セリ。戰利裁廳之ヲ断レテ、其和蘭ニ到ル前ニ運送シタル貨物ノ捕拏セラレタル物ハ、之ヲ追還シ、其和蘭ニ在ル時捕拏セラレタル物ハ、之ヲ没収セシメタリ。是レ捕

拏セララル、ノ時同氏尚ホ和蘭ニ在リレテ以テナリ、但シ追還セララル、ノ船舶ハ、一千七百九十六年、ビヘス、アメリカン号ナリ、又没収セララル、ノ船舶ハ、一千八百年「セハン」ニベル「ホモナ」第三百二十五条、一千八百三年、發果得氏ノ決スル「チア」船ノ事件ハ、又十分右ノ迂往捕拏ノ例ヲ示スニ足レリ、爰ニ一千七百九十五年、英國和蘭ト交戦ノ時、和蘭ノ屬地「デマラ」ノ殖民地英軍ニ降リシカ、後チ「アミーン」ノ和議ニ因テ再ヒ和蘭領ニ復シタリ、此和議ノ約定中ニ、此島ノ

住民ハ何レノ国ヨリ移住スル者タリ此約定
公布ノ日ヨリ三ケ年ノ間戦前或ハ戦際獲ル所
ノ貨物ハ之ヲ販賣スルモ各々随意タル可キノ
箇条ヲ載セタリ然ルニ又一千八百三年英國和
蘭ニ對シテ兵ヲ構フルノ前「ナ」船及ヒ他ノ
數船島嶼殖民地ノ產物ヲ積載シテ和蘭ニ赴カ
ントスル途中英船ノ為メニ捕拏セラレタリ
于時此戦争公告ノ後尚ホ先キノ約定公布ヨリ
三年ヲ終ラサルニ「デ」島復ヒ英國ノ所轄
トナリタリ此時島嶼ノ住民ヨリ捕拏セラレハ

貨物ニ對シテ請求ヲ乞ヒシカ元來其住民ハ嚮
キニ一旦英領トナリシ時移住セシ者アリ或ハ
其以前ニ遷居セシ者アルヲ以テ其英領ニ再渡
セシ後ニ依テ之ヲ裁判ス可キ事ニ決シタリ斯
果得氏ハ其先キニ一旦英領トナリシ時遷住セ
シ者ノ貨物ハ之ヲ還給シ其以前ニ移住セシ者
ノ貨物ハ之ヲ没収ス可キ事ニ裁決セリ且ツ同
氏論シテ云ク抑モ「マ」地一旦英領ニ属
セシ時遷住セシ者ニ就テ之ヲ論スレハ前ニ一
度ヒ和睦シテ島ヲ和蘭ニ還與セシ時此住民ハ

必ス本国へ帰国セシ者ト推定シ、和議約定ニ依
テ更ニ其帰意ヲ証スルヲ容ルヌ可シ、故ニ此住
民ニ至テハ、素ヨリ帰国權原語「ユス、ホ」ヲ末
失ハサル者ニシテ、十分英國人タルノ守護ヲ受
ク可キ者ナリ、然レモ又爰ニ常住ヲ占ムントス
ルノ意アル時ハ、何ソ新住ヲ以テ之ヲ論セニヤ、
即チ「ホアイトヒール」氏ノ事件ヲ以テ明瞭タリ、
同氏ハ英將水師提督「ロトニ」氏及ヒ英軍「イユ
スタチユ」島ニ侵入セシ時、終カ一二日前ニ此
島ニ到着セシ者ト雖モ、既ニ其地ニ常住ヲ占ム

ルノ証跡判然タルヲ以テ、其貨物ヲ没収セラレ
タリ、是ヲ以テ新住ヲ以テ常住ヲ概論スルヲ能
ハサルナリ、然レモ「デマラ」島、一旦英領トナリ
レ前ニ遷居スル者ノ貨物ハ之ヲ没収セリ、斯果
得氏曰ク、抑モ此住民ニ至テハ、素ヨリ信ヲ英國
ニ托レテ遷ル者ニ非ルヲ以テ、中頃口此島英有
ヲ離レシ時、俱ニ其島ヲ離レテ本国ニ帰国ス可
キ者ト推定スルヲ能ハス、又此等ノ住民ハ、何レ
カ其ノ一國ヨリ遷居セシ者ニシテ、今之ヲ英國
ニ屬スル者ト推定スル時ハ、必ス此住民英有ヲ

離レタル時其地ニ止ル可キノ意アラサルノ模
様アルニ非レハ、英國人ト見ル能ハサルナリ、夫
レ一旦英領ニ歸セシ前ニ移住セシ住民ノ位置
ヲ考フルニ、更ニ蘭都アムステルダムニ居住ス
ル人民ト其理異ナルヲ無シ、然レ其住民ノ内
現ニ島ヲ去ル者アリテ、其証跡確ニナレハ、亦其
貨物ヲ還給スルヲ得ルモ決シテ理ナシト云
フ可カラズ、然テ我カ論スル所ハ、爰ニ英領トナ
リレ前ニ遷住スル者ハ、判然島嶼退去ノ確証ア
ルニ非レハ、英人ト推定スルヲ能ハサルヲ云フ

ナリ、

第三百二十、三条 一千八百四年ニ決定スル
レシ船ノ事件ハ、平時英國人外國ニ居住シ、戦
時ニ當テ渡カニ帰国ノ處置ヲ為シタルヲ以テ、
捕拏セラレタル貨物ヲ請求セシ事件ナリトス
即チ討至ハ平和ノ時和蘭ニ在テ商社ニ加ハリ
シカ、戦時商社解散セシ為メ用意ヲ整ヘ帰国ヲ
欲スレハ、當時始戦ニ臨ンテ敵国ニ在ル英人ヲ
巖苗セシ為メ、自ラ其標ヲ出ル能ハサルノ模様
アリタリ、斯果得氏此事件ヲ論シテ云ク、余考フ

ルニ此事件ハ其最初和蘭ニ在ル時ノ商業又佛
國ノ為メニ強迫セラレテ回ルヲ得サルニ至
テハ之ヲ論決スルニ獨リ法律ニ依テ之ヲ決ス
可カラス其貨物ノ確証ヲ得テ之ヲ給還ス可キ
ナリ

此事件ニ付「ロビンソン」氏論シテ曰ク戦時敵國
ヨリ帰國欲スルト虽モ驟カニ兵害ヲ蒙ルニ
及ニテ遂ニ果ス能ハサルニ至リタル英國人ノ
位置ハ戦利裁廳ニ於テ之ヲ断スル最モ難キニ
抵ル古來斷カラストス故ニ同氏ノ論ニ寧ニ

帰國ノ意アレバ如此キ場合ニ陥リタル人ニ告
テ曰ク夫レ戦時ニ在テハ既ニ帰意ヲ逞フスル
モ屢遂ル能ハサルノ場合ニ陥リ貨物ヲ一度ヒ
捕拏セラレハ時ハ給還ヲ得ルヲ甚タ頼ニ難シ
トス是ヲ以テ唯將サニ貴重ノ貨物ヲ帰意ニ信
托スルヨリ寧ロ敵國政府ノ通行免狀ヲ得テ疆
ヲ出ルヲ良策トス可シ又斯果得氏「デリー」ゲブ
ル「テルス」ノ事件ヲ論シテ曰ク元銀ヲ携帶シ
去ルノ模楯ハ殊ニ注意シテ之ヲ糾査ス可キナ
リ然レモ若シ之カ為ノ事凶寧ニシテ且ツ戦争

3
國中ニ在ル貨物ヲ運回セントスルノ意ノミナ
ル時ハ亦寛法ヲ以テ處断セラルル事アリトス
然レ氏爾後特別ノ模様アリテ英國人其貨物運
回ノ為メ裁廳特ニ寛法ヲ以テ處断セシ時同氏
又告テ曰ク凡ソ特別ノ場合ニ於テ貨物ノ給還
ヲ得ルノ裁決アリト虽氏何レノ時敵国ヨリ貨
物ヲ運搬スルモ之カ為メ通行免状ヲ得ルノ要
領ヲ怠ルル勿ル可シ

第三百二十七條 右敵国ニ遷住スルノ規則ハ
近時英米戰爭中米国人ノ戦利裁廳ニ於テモ同シ

ク用ユルノ規則ニシテ即チ戰爭前曾テ英人數
名米国ニ移住セル者アリ戰爭公告ノ時合衆国
ノ法律ニ依テ英人ト同視セシ一例ナリ元來此
英人ハ久ク米国ニ住ミシカ戰爭前本ニ英吉
利ニ回リテ再ヒ其地ニ住所ヲ定メ商業ヲ營ミ
某ノ貨物ヲ裝載シテ英國ヲ出帆セリ此貨物ハ
同氏等未タ英米交戦アルヲ知ラサル前ニ積載
スル物ニシテ米国兵船ノ為メニ之ヲ捕拏セラ
レタリ此時討主ノ同一人未タ敵国ニ在リ既ニ
其捕拏セラレハヲ聞テ米国ニ歸ルヲ欲スルト

虽氏屢阻碍アルニ因テ困ルヲ能ハス、又一人アリ捕撃ノ後ニ米國ニ歸レリ、又一人アリ尚ホ英國ニ在任セリ、此事件ニ付キ米國裁廳ニ控テ悉ク其貨物ヲ没収セシ事件トス、
此事件ニ控テ上裁廳其裁決ヲ論シテ曰ク、討主ハ任所ヲ定ムルニ控テハ、茲ニ論スル所ナシト
虽氏法律ヲ就テ之ヲ考フ可キ疑件ニアリ、一ニ曰ク、人其國ノ性格ヲ得ル時ハ、永久ノ義務ヲ盡クス性格ト異コレテ、何ニ由テ之ヲ得、又何ニ及ホシテ之ヲ得セシムルヤノ事、二ニ曰ク、一時得

タル性格ハ、其之ヲ得タル國ト、己レノ本國、或ハ歸化セル他國トノ間ニ戰爭ヲ開ク時、如何處置ヲ受ク可キヤノ事、
第三百二十八條 其一ハ既ニ奉論スルニ家ノ諸説ト、英國戰利裁廳ノ決定トヲ以テ之ヲ定ム、然レ氏人其常任ノ權ヲ得ルヲ決スルニハ、獨リ公法著述者ノ輔ケニ頼テノミ決スルニ非ス、元ヨリ公法ノ著述者ハ、唯正ニ大理ヲ論スル所ニシテ、此大理ヲ踏テ規則ヲ設クルニ至テハ、抑モ裁廳ノ掌トル所トス、若シ夫レ人ヲシテ迂任ノ

權利ヲ得セシメントスルニハ、他国ニ移テ居テ
其地ニ占ムルノ十分^意顯ハレテ後テ決スル所ニ
シテ、是レ全ク其時ノ模様ニ關係スル所トス、故
ニ人若シ常住ノ意ヲ明カニ演ハスレテ、其真意
知ル可カラサル時ハ、必ス其所為ニ因テ常住ノ
証據トナス所アラサルヲ得ス、是ヲ以テ英國裁
廳ニ於テハ、人他国ニ迂テ居テ占メ其地ニ在テ
商事ヲ謀ル時ハ、之ヲ其地常住ノ証據トシテ以
テ其国ノ性格ヲ得セシムルヲナリ、即チ是レ裁
廳ニ於テ、常住ノ意アルヤ否ヲ決スル有理ノ規

則トス、又若シ他国ニ移住スルノ意元來、常住ノ
意ニ出ルカ、或ハ時期ヲ定メサル時ハ、縱令ヒ迂
テ兩三日ト虽モ、既ニ常住ノ權ヲ得セシメ、更ニ
時ノ暫久ヲ以テ之ヲ論スルヲナシ、是レ其国戰
利裁廳ノ規則ニシテ、專ラ至理ニ出ル所トナス
可シ、又他国ニ在留スル中立国ノ者ト止心^{原語}
ニモ、ネヲ有スル者トテ考定シ、戰時其国ノ性格
ヲ得セシムルニハ、必ス其在住ノ模様ヲ審カニ
セサル可カラス、其他英國戰利裁廳ニ於テハ、在
住或ハ商事ノ模様ニ因テ、国ノ性格ヲ得セシム

ル規則ニ就テ米國裁廳ニ於テ別ニ之ヲ論セス
即チ當時ノ事件ハ計ニ等既ニ英米戰爭ノ為メ
英國ニ在テ常住ノ權ヲ得シ者ニ決セシヲ以テ
ナリ

第三百二十九條 其二ハ一時在任シテ性格ヲ
得タル國ト永久ノ義務ヲ盡クス可キ本國トノ
間ニ戰端ヲ開ク時ハ其在任ノ者ニ施ス處置
如何ノ事ニシテ此位置ニアル中立國ノ者若シ
他ノ戰爭國ヲ加ハル時ハ我ヨリ之ヲ敵人トシ
テ處置ス但シ本國ノ民他ノ戰爭國ニ在任スル

者ハ之ヲ敵視スルヲナシ是レ理ニ於テ元來永
久ノ義務ヲ盡ク可キ本國ニ對シテ自ラ敵人ト
ナルノ理アル可カラサレハナリ然レモ總令ヒ
理ニ於テ之ヲ敵人ト做サ、ルモ在任ニテ敵
國ト貿易スル時ハ其貨物ヲ沒收スルヲ得ル
ニ依テ考フレハ亦敵人ト做サ、ルノ理アル可
カラス是レ唯本國ヨリ固ルヲ望マル、時之ヲ
辭シ或ハ本國ニ對シテ現ニ敵對スルニ非レハ
判然敵人ト為サス、且モ右ノ位置ニ在テハ常
敵國ニ黨與スル者ト考定ス故ニ敵國ト通商ニ

管係スル此規則ハ中立国ノ人民ニ對シテモ亦
同理トス此規則ヲ及用シテ又中立国ニ在任ス
ル戦争国ノ人民ニモ施用スル所ニシテ中立国
ニ常住シテ敵国及ヒ其他ノ外国ト通商スルニ
至テハ之ヲ兩國共ニ中立ノ者ト考定ス

第三百三十條 然レ凡他国ニ遷住シテ得ル
所ノ性格ハ其本国ニ歸リ或ハ他国ニ歸リ以
テ随意ニ之ヲ廢棄スルヲ得可シ此規則ハ異
論ス可カラサルノ至理ニシテ人一度ヒ外国ニ
在任シテ其国ノ性格ヲ得ル時ハ其本国ニ歸ル

カ或ハ再ヒ歸ルノ念ナク退去スルカニ因テ其
性格ヲ離レサル内ハ總テ其国法ニ從ハサルヲ
得ス若シ現ニ遷轉スル一事ヲ以テ既ニ在任
ニ因テ得タル性格ヲ變スルヲ聽ルス時ハ又
其轉移セントスル真意ノ証據アレハ其性格ヲ
變スルトスルニ更ニ理ナシト云フ可カラス蓋
シ遷ラントスルノ意ヲ演ルノミニテ尚ホ依然
トシテ其地ヲ離レズ現ニ轉移スルノ所為アラ
サレハ全ク信用ス可キニ非サルナリ寧ニ本人
ニ於テモ一旦遷轉ノ意ヲ述ルト虽モ後々意ヲ

変スルヲアルヲ以テ、必ス其身ニ於テモ信スル
ヲ能ハサル可シ、然レモ若シ其遷意ヲ説明スル
ニ、必ス違変ス可カラサルノ言ヲ副ユル時ハ、乃
チ之ヲ迁移シテ性格ヲ変スルノ最モ正ニシテ具
フル者ト云フ可シ、借テ戦争国ノ裁廳ニ於テ、戰
争国ノ人民如此キニ重ノ品格ヲ用ヒ、臨機己レ
ノ欲スル所ニ隨テ、何レニモ一方ノ權利ヲ選フ
ヲ防ク、可キハ當然ニアラサルヤ、又若シ敵ト通
商スルニ、其貨物ヲ捕拏セラル、時、此害ヲ遁シ
ント欲スレハ、即チ敵国ヨリ本国ニ回ラントス

ルノ意ヲ陳テ之ヲ免ル、トテ得可シ、然レハ是
レ兩國ノ間ニ中立スル者ニシテ、如此キ商事ヲ
正商ト為ス可キヤ、又若シ戦争国ノ人民、其遷住
スル他国ニ己レノ本国ト戦争ニ及ニテ、兩國何
レカニ因テ貨物ヲ捕拏セラル、時ハ、其遷住ノ
国ニ對シ、其常住ノ民タルヲ陳テ之ヲ遁レ、又本
国ニ對シテハ、其本国ニ復住スルノ意ヲ陳テ之
ヲ免ル、トテ得可シ、如此ク己レノ便宜ニ從テ
兩國ノ戦權ヲ避ケ、以テ捕拏ヲ免ル、トテ聽ル
ス可キヤ、夫レ如斯キ不當不正ノ所為、及ヒ其偽

言又違フシテ害ヲ逃レントスル欺罔ヲ拒防セ
シカ為メ前キニ論スル所ノ規則ヲ用ヘルナリ
又戦前他国ニ迁住スル中立国ノ人民ト戦争国
ノ人民トノ區別ハ戦時何等ノ規則ニ依テ立テ
ラルヤ其貨物ニテ迁住スル国ノ商事ニ管係
スル物ハ其国民タルノ性格ニ因テ戦前本人ニ
属スルト虽モ一旦其迁住国ト他ノ別国ト戦争
ニ及フ時ハ两国ノ人民送ヒニ敵視スルヲ以テ
一度ヒ信友ノ貨物タリシモ今日敵人ノ貨物タ
ラサルヲ得サルナリ

第三百三十一條 右ニ付キ英国ノ慣習法裁廳
及ヒ戦利裁廳ノ規則ハ此初篇ニ論スル如ク万
国公法ニ基ク所ニシテ敵国人民ノ貨物ハ貨主
常住スル内即チ「ゴロシユ」氏ノ言ニ敵国ニ居
住ノ間タリモ何故強償法及ヒ戦争法ヲ以テ之
ヲ處置ナサルヤ是ハ敵人タリモ戦前ヨリ遷
居シテ戦後ニ續ク時ハ一時義務ヲ盡ス可キ其
土地ノ民族ニシテ其国法ヲ奉ス可キ者トス故
ニ此時ニ在テハ其本国ニ管係スル人民ノ外移
テ其地ノ民族トナル者ハ法律ニ依テ民族タル

ノ權ヲ有シ其國ノ守護ヲ受ルヲ以テ之レニ報
フルニ戰時其國ヲ守防スルノ義務ヲ盡サ
ル可カラス如此キ人民ノ貨物ハ本國人ノ貨物ト
一樣他國ニ對スレハ之ヲ一國ノ貨物ト考定ス
既ニ一國ニ屬スル物トスル時ハ即チ一國ノ富
ヲ助ケ一國ノ力ヲ補フ者一部タルヘシ則チ是
レ發得耳氏ノ論ニシテ同氏又強償ヲ論レテ云
ク強償ニ於テハ敵國王屬ノ貨物ト一樣其人民
ノ貨物モ捕拏シ公信ニ托レテ置ク物ノ外敵國
ニ屬スル所ノ諸貨ハ悉ク強償ヲ行フヲ得ル

ナレ今若シ他國ニ遷住スル人ヲ其在道中其地
ニ民族トナシ且ツ其貨物ヲ敵國所屬ノ一部
トシテ強償ヲ行フ時ハ遷住スル國ト本國トノ
戰爭或ハ遷住スル國ト他國ト別國トノ公戰ニ於
テモ同様ノ規則ニ歸セサルヲ得サル可シ若シ
夫レ現ニ轉移スルカ或ハ轉移スルヲ正實ニ始
ムルノ外爰ニ遷住ニ因テ得タル性格ヲ變スル
ヲナキ時且ツ貨物ハ海旅ノ始ヲ捕拏セラルハ
ノ時尚ホ遷住セシ國ノ性格ニテ其人ニ屬スル
物トスル時之ヲ本國ノ捕船原語コロイニテ其セラル

人尚ホ敵国ニ在苗スルヲ免ルヌノ理アル可キ
ヤ

第三百三十二條 一國ノ民他國ニ迁住シ其地
ニ在テ戦争ノ公告ヲ聞ク時ハ其地ニ止ル可キ
ヤ或ハ永久ノ義務ヲ盡テス可キ國ニ歸ルヘキ
ヤ何レカ之ヲ撰定スルノ時間アラサル可カラ
ス此撰定ヲ為ス迄テハ其貨物ヲ外國ノ捕船ヨ
リ捕拏スルヲ免ルヌ可レト云論アリ然レモ是
レ法律ニ於テ西理ニ適ハサルト思量ス第一
ニ人若シ他國ニ迁住スル時戦時ニ臨ニテ其歸

ルト歸ラサルト何レニ撰定スルヤ未タ其意
ヲ知ル可カラサル内ハ必ス歸国ス可キ者ト之
ヲ推定ス元ヨリ戦ヲ聞テ本國ニ歸ルハ本國人
タルノ義務ニシテ此推定アラサルヲ得サル
トスルハ素ヨリ然ラシムル所トモ是レ亦然
ル可カラサルナリ其本國ニ反ヒテ敵對ノ所為
ヲ行ハス援助人爲メ歸国ヲ望ムルノ時ハ即チ
歸ルヲ以テ抑モ迁住人ノ義務トナス可シ又公
法ノ寛法ヲ用ユル良國ニ於テハ其本國ニ對シ
テ兵仗ヲ取テシムルヲ欲セス或ハ非常ノ場合

ニテ帰国ヲ准ルス時ハ一般ノ国害ヲ招クニ至
ル可キ危急ノ模様アルニ非レハ即チ本人ノ望
ミニ任セ戦時何時タリモ帰国ヲ妨クルコトナシ
之ヲ公法會盟ノ大理トス各国迭ヒニ盟約シテ
戦時兩國ノ人民其貨物ヲ携テ帰国シ或ハ止マ
ルモ敢テ妨害ナサハルヲ定ムルコトヲ大抵一般
ノ習慣トシ蓋シ之ヲ約定スルハ偏ニ兩國人民
ノ止ルモ或ハ帰国スルモ聊カ妨害ナサハルニ
歸スル所ナセリ故ニ自由ニ此戦定ヲ容ルニ更
ニ之ヲ決定スル時ハ何レトモ約定ニ因テ其權

利ヲ需ムルコトヲ得可キナリ然レモ此撰定ヲ為
サハル内未タ從前所有ノ性格ヲ変スルニ非
ズ故ニ未タ何レモ撰決セサル内ハ其迂住セル
國ノ通商自由テ得ル討主ノ貨物ヲ大洋中ニテ
見ル時他ノ戦争國ノ捕船之ヲ戦争ノ為メ本國
ニ歸任スル者トシテ自由ニ通航スルコトヲ許ル
ニ更ニ無事本國ニ安着シテ後討主却テ敵國ニ
止ルノ真意ナリシ時ハ此處置如何ニ歸ス可キ
ヤ又若シ其貨物ヲ捕拏シテ直チニ裁判ヲ望マ
ルニ時今此規則ニ從ハハ止マルノ意更ニ判然

タル迄之ヲ其儘差置カサルヲ得サル可シ此時
ニ當テハ討主何レト利ヲ失ハサル方ニ撰定ス
ルヲ得ヘキ理ニテ捕拏セラルハノ後討主損益
ヲ思量シテ迂往セシ敵国ニ止マルヲ利ヲ得ト
考フル時ハ止マルニ決意シ又本国ニ帰ルヲ利
アリト考フル時ハ帰国ニ決意シ止マルモ帰ル
モ己レノ欲スル所ニ隨テ貨物更ニ安全タル可
シ
如此ク反對ノ事件ヲ生スル規則ハ政權ノ聽ル
ス可カラサル所ニシテ久來ノ英國戰利裁廳ノ

規則ニ背ク可シ此規則ハ米國ニ於テ採用ス可
カラサルハ正理アルニ非レハ亦米國上裁廳ニ
於テモ同レク遵奉スル所ノ規則トセリ此規則
ハ戰際貨物ノ性格ヲ捕拏セラレテ後貨主ノ所
為ニ因テ変スルヲ能ハサル事トス此規則ハ其
意味實ニ曠漠ニシテ決シテ其正確ナル所ヲ論
スルヲ能ハスト虽氏貨物既ニ捕拏ヲ受ケ殊ニ
其捕拏セラレタルヲ知テ後貨主ノ撰定スル所
ニ因テ変ス可カラサルヲハ毫モ疑フ所カラサ
ル所トス夫レ何レトモ捕拏ノ後撰定スルヲ

准ルス時ハ由テ生スル所ノ害如何ヲ考フ可キ
ナリ、迂住ノ敵國ニ因テ捕拏セラル、時ハ其國
民タルトニ撰定シ、又本國ニ因テ捕拏セラル、
時ハ本國ノ人民タルトニ撰定ス可シ、如此、兩
國ノ權利ヲ有スルヲ聽心ス可キヤ、又法律ニ於
テ、兩國ニ對シ如此ク中立ノ權ヲ有スルト正
理ト為ス可キヤ、夫レ一ノ戰爭國ニ屬スル者、其
時ニ臨シテ一時中立ノ位置ヲ定メ、己レノ便宜
ニ從テ更ニ撰定シ、以テ貨物ノ捕拏ヲ免ルハ、
ヲ得セシムルハ、全ク奇異ノ新說ニ歸スル所ニ

レテ、之ヲ論スル時ハ更ニ反對ノ規則ヲ以テ之
ヲ處スルノ難事トシテ涉ラサルトヲ得ス、然レモ
此事件ノ理正確ナレハ爰ニ難事ヲ生スルト勿
ル可シ、即チ撰定スルノ前大洋ニ在テ見出ス所
ノ貨物ハ、本國ノ捕船ニ之ヲ捕拏スルト決ス
ル時、迂住スル他國ノ捕船ヨリハ、其捕拏ヲ免
ルルノミナラス、却テ之ヲ保護セサル可カラズ、
蓋シ一國ノ權利ヲ有スルヲ以テ乃チ正理トナ
ス可シ、ニ權ヲ與フルトヲ准ルスハ甚タ理チキ
ニ屬スルナリ、

第三百三十三條 凡ソ歐羅巴及ヒ亞米利加ニ
在ル商賈ヲレテ其土地ノ性格ヲ得セシムルハ
容易ナリトモ、東土ニ在テハ固ヨリ風俗同シ
カサルヲ以テ東土ニ來テ在住スル歐羅巴ノ
ハ性格ヲ同フスルヲ得ス故ニ東土ニ在ル所
ノ商社ノ性格ヲ得ルナリ、西土ニ在テハ外國ノ
商賈互ニ雜居シテ相交通シ、幾ント一体ニ異ナ
ラス、東土ニ在テハ然ラス、古來同フスカラサ
ルノ性格ヲ有シ、外國人ヲ本國人ト同視スルヲ
フ准ルサス、唯、英人旅客ト見ルニ過キサルナリ、

故ニ曾テ英萬戰爭ノ時、英商土耳其ニ在リ、スニ
ルナニ於テ貿易シ、全ク和蘭領事ノ保護ヲ恃ミ
タル者ノ事件ニ就テ、英國戰利裁廳之ヲ斷シテ
更ニ和蘭人ノ看做シ、敵ニ屬スルノ貨物トシテ
盡ク其貨物ヲ沒收セリ、故ニ西人ノ支那及ヒ東
土ニ來ル者ハ、其本國ノ性格ヲ以テ論セス、尚ホ
其在住スル國ノ性格ヲモ論スルナク、唯屬ムル
所ノ商社ニ、因テ性格ヲ定ムルナリ、
然レモ是レ英國所轄ノ印度地方ニ及ホスカ
ラサレナリ、即チ斯果德氏ノ論スル如ク、印度ハ

古來國君アリテ偶々政議ニ與カルト雖也恰モ
空像ノ如ク有名無實一モ其議ヲ用ヒラル、ニ
非ス和戰ノ權全ク英國ニ歸シテ王權獨リ英國
ノ專ラニスル所トス然レ又國君時トシテ
然國義ヲ出スト有ト雖也決シテ英國商會ノ權
ヲ妨クルト能ハス實ニ英國商會ハ此國ノ祖造
ニシテ此ニ在任スル所ノ高貴ハ全ク英國ノ人
民トシテ之ヲ考定スルナリ

第三百三十四條 渾テ人ヲ中立人、或ハ敵久ト
做スノ性格、各其在任スル處ノ性格ヲ以テ之

ヲ定ム然レ也其人ノ貨物ハ在任ニ因テ得ル人
ノ性格ニ拘ルヲス敵貨ノ性格ヲ得ルナリ故ニ
敵國ニ在ル商社ノ貨物ハ之ヲ戦利トシテ捕拏
セラル、ナリ然レ也兼テ平時ヨリ敵國ニ來テ
通商スル者ニ在テハ縱令ヒ戰時ニ當テ其地ニ
在ラサレ也時期ヲ與ヘテ貨物ヲ收回スルヲ
准ルス但交戦後敵國ニ入テ商社ニ加ハリ或
戦間商社ノ離レサル者ノ如キハ縱令ヒ其身中
立ニ在ルト雖也捕拏ヲ免レサルナリ

第三百三十五條 英國戦利裁廢ノ此規則ハ亦

米國ニ於テモ用エル所ニシテ、敵國ニ在任スル
商費、中立國ノ商社、加ハリ利益ヲ得ル者ノ事
件ニ及用ス可カラサルナリ、蓋シ中立國ニ在任
シテ、敵國ニ在ル商社ノ利益ヲ保護スルヲ能
ス、亦敵國ニ在任スレバ、中立國ニ在ル商社ノ利
益ヲ没収セララル、事トス、此規則ノ要領ハ、即チ
捕者ノ利トスル所公平ヲ失ハサルヲ主トス、是
レ戰爭國ノ裁權ニ依テ制定スル戦利法ニシテ、
海軍ヲ益獎勵セシムルニ歸スル所トス、
第三百三十三條 凡ソ敵國或ハ敵國所轄ノ目

ニ生スル土産、其人何レノ性格ヲ有スルヲ論
セス、又何レノ地ニ在ルヲ問ハス、地主ノ手ヲ脱
セサル内ハ、之ヲ敵貨ト考定ス、
此規則ハ、英米ノ戰爭ニ於テ、米國上裁廳英國戰
利裁廳ノ規則ニ倣テ取用セラル者ニシテ、即チ
其事件左ノ如シ、諸テ爰ニサンタクリユスト稱
スル一島アリ、此島曾テ噠國ノ所屬タリシ由、迄
時歐洲ノ戰爭ニ於テ、英軍ノ據ル所トナリ、島民
皆英ニ服後セリ、于時此島ノ地主、噠國ノ一士官
アドリアーン・ベンヂヤミン・ベソソビ氏ナル者

全島英ニ降ルノ後去テ本国噶国ニ居住セリ然
ルニ島民ノ領地尚ホ英有テ成ラサルヲ以テ同
氏国ニ退クヤ虽此之レヲ代人ニ托シテ其領地
ヲ管理セシメ土産砂糖三十桶ヲ英船ニ裝載
テ倫敦商社ニ宛テ途中ノ危災ハ貨主ノ引請ヲ
以テ之ヲ積送リタリ此時海上一在テ米国兵船
ノ為メニ捕奪セラレ下等裁廳之ヲ戦利トシテ
没収セリ此事件上裁廳ニ控訴セラルト虽此
尚ホ右没収マカテノ裁判ヲ確定セリ
第三百三十一條 此裁決ヲ言渡スニ付キ米国

上裁廳論シ云ク「サニタクリユス」島英国ノ所
轄ト成ル間而シテ英島ト考定セラル可キヤノ疑
問アリト虽此是レ更ニ疑フ可キ所アル可カ
ラス夫レ繼今ニ戦争ニ因テ獲ル所ノ物ハ後々
和議ニ依テ之ヲ確定スルニ非レハ未タ永久ノ
物ト考フ可カラズ然レモ戦勝テ其島ヲ獲之ヲ
支配シ其商事及ヒ戦争ニ就テ之ヲ論スレモ其
受握中ハ即チ勝者所轄ノ一部分ト考フ可キナ
リ「サニタクリユス」島ヲ獲テ後々再ヒ噶国ニ還
與セ「迄」全ク英国ノ属島タルヲ疑フ可カラ

ナルナリ、故ニ貨物ヲ敵貨トシテ没収セサルヲ得サルナリ、又此島ノ土産ヲ噠国ニ在ル噠人自ラ積出スニ何ニ依テ之ヲ英国人ト定メ敵貨ト做シタレバ疑問ヲ起シ討主ノ代言人之ヲ諭シテ二件ヲ述メリ一ニ曰ク此度ノ事件ハ英国海軍裁判所ニ於テ定メタル敵国ヨリ積出スノ規則ニ適當ス可カラサル事ニ曰ク英国海軍裁判所ニ於テ定メタル不心ノ規則ハ合衆国裁廳ニ於テ之ヲ用ユ可カラサル事

第三百三十八條 其一、英国海軍裁判所ニ於テ定ムル規則ハ、此事件ニ適當ス可キヤノ事ニ付、米國上裁廳ニ於テ之ヲ考フルニ、曾テ「フィクス」船ノ事件アリ、今ク此事件ニ異ナルヲナシ、抑モ此事件ハ「レエリナム」島ヨリ北極へ航海中、英艦之ヲ捕撃セシヲ以テ、當時中立国ノ日耳曼ニ在住スル者「レエリナム」島ノ土産タルヲ以テ其船貨ヲ請求セリ、此時捕者ノ代言人、此事件更ニ法律ニ適ハサル所ナシトス、討主ノ代言人、是ニ服シテ敢テ争ハス、唯「アミー」シノ和議ニ因テ保護

ヲ得ニ事ヲ務メタリ。然レモ斯果德氏裁判ヲ述
ルニ通則ヲ論シテ云ク、爰ニ合衆國裁廳ノ規則
トシテ誓テ論スル所ハ、凡ソ地ヲ領シテ其土產
ヲ他國へ輸出スルニ至テハ、地主ノ所在ヲ論
ス。之ヲ領スルニ因テ其土地ノ性格ヲ地主ニ蒙
ラシムルノ外、一モ他ニ決スルノ道アル可カラ
ズ。當裁廳ニ於テモ、此上論スル所ナシ。本日法律
ニ於テ又疑問別ニアル可カラス。
其後「チエプロ」アレナカサリ。船ノ事件ニ對
スル果德氏規則ヲ演ヘ道理ヲ論シテ云ク、平時戰

時ニ拘ハラズ。又居處ヲ論スルノナク、爰ニ詰
テ土地ノ性格ヲ得ヒシムルニ、此事件ヲ因
テ考フ所ハ、十分之ヲ蒙ラシムルニ一モ疑フ所
有ル可カラス。夫レ敵國ニ在テ躬ヲ耕耘シテ得
ル所ノ土產ハ、縱令ヒ平時ノ積出スト、虽氏之
ヲ敵人ノ貨物ト考定ス。是レ貨主元來其國ノ地
主トナリテ永久ノ利徳ヲ得ルナリ。且ツ此事
件ハ、其居所職業ニ管ラス。敵國所產ノ一部
ヲ免レサレナリ。

如此ク精密ニ論スル所ノ規則ハ、ベニク氏ノ

諸不ト一様ニ觀ル可カラサルノ論アリ是レマ
ンクニ氏ニ其國永久ノ利徳ヲ得ル者ニ非ス
ンタクリ紅区島未タ哩國ノ所屬タリシ時得ル
所ノ土地ニシテ既ニ其島英屬トナリシ時
ラ島ヲ去テ本國ニ歸住セシ者ナリ上裁廳ニ於
テ此區別ヲ正確ト見ル能ハス凡ソ此事件ニ於
テ實主ノ性格ヲ其有スル地ノ性格ト相均フス
ルハ地ヲ得タル模様或ハ其一般ノ性格ニ係ハ
ルニ非ス夫レサンタクリエ区島ニ於テ土地ヲ
領スル時討主其地ヲ有スル間ハ渾テ其島外共

ニセサルヲ得ス即チ其島哩國ノ所屬中生スル
所ノ土産未タ賣却セサル内ハ其貨主ハ一般
性格ニ係ラス全ク哩國ノ所有トス其島英國ノ
所轄トナレモ亦敢テ異ナルトナシ故ニ此事件
ニ於テハバンソニ氏一般ノ性格等ニ管係ス可
カラズ縱令ヒ一般ノ性格ヲ論スル時ハ哩國ニ
存テ永久ノ利徳ヲ得ル者ト做スト虽モ其
タクリエ区島英有トナリシ時此地ニ耕耘スル
處ヲ以テ論スレハ亦此島ニ於テ永久ノ利徳ヲ
得ル者ト為ス可シ又縱令ヒ一旦哩人トナリテ

英國ニ對シ歐人トナルト雖此島ノ地主トナ
リテ英國上戰フ者ニ非ス故ニ安全ニ其ニ在テ
英國ハ積送ルヲ得可ナリ
其二、右ニ依テ考フレハ此事件ハ英國戰利裁
廳ニ於テ定ムル規則ニ俾ラサルヲ明瞭タリ次
ニ米國ニ於テ此規則ヲ用ユル如何ノ疑問アリ
第三百三十九條凡ソ萬國公法ハ戰爭國ノ權
利及ヒ中立國ノ權利ニ就テ歐亞文明ノ通商國
ニ於テ共用スル所ノ規則ヲ需ムルノ大基本ニ
シテ此公法ハ一部分昏記セサル者アリ又此

分會盟誓約ノ上ニテ定ムル者アリ其昏載
ル所ノ法律ヲ定メトスルニハ須ラク公理公
義ヲ尋ネテ以テ之ヲ決ス可ク然レモ各種ノ模
樣ニ因リ各國ノ論スル所亦一般ナラサルヲ以
テ余輩後米ノ裁決諸例ニ依テ稍之ヲ確實ノ者
ト考定ス故ニ通習ニ因リ各國ノ裁廳ニ於テ決
スル所ノ事ハ敢テ之ヲ確列ト取テ我カ裁判ヲ
決スルニ非ス唯裁判參考ノ為メニ用ユルヲ
リ各國ノ裁決ハ即チ某ノ事件ヲ指テ之ヲ此
ニ照ラシ公法ニ因テ論スレハ何レニ歸ス可キ

ヤ 顯ハス亦ニシテ後テ此国ニ施用ス可キ規
則ヲ撰定スル者ト定ムルナリ、
英國戦利裁廳ニ於テ制定スル規則ノ公義及ニ
其他各国ノ裁廳ニ於テ定メタ
較スルニ非一ハ余輩思考シテ完ク非難ヲ逢ケ
サレ規則ヲ撰定スル能ハス、合衆国ハ一度ニ
英領ノ一部分タリ故ニ英國ノ戦利法ハ即チ我
カ合衆国ノ戦利法ニ一テ、英未分立ノ後我ニ不
可ナル所ナキ者ハ未分立ノ後我ニ採用
ニル所ノ戦利法トセリ、

如斯ク英米兩國ノ間古來ノ管轄アリト雖、敢
テ古來ノ英法ニ拘泥スルニ非ス、英國裁廳ニ於
テ定ムル所ノ公法ノ不可ナキ者ヲ採テ其他ノ
各国ノ新則ヲ貴ハサルニアラス、然レモ亦古法
ニ依テ裁決ヲ得ル事件ハ極メテ不理ニ歸スル
カ、或ハ既ニ他ノ各国ノ廢却スル規則カニ非レ
敗テ又之ヲ非トスルニテラサルナリ、
一、ブニキス船ノ事件ニ於テ決スル規則、
二、新則ニ出ル所ト云フ一千七百八十三年、上裁
官、目前ニ於テ決スル事件ヲ先列トセシ事、一

及ヒ此ノ状ヲ見海スル時

免状トシテ性格ヲ定ムル

其願号トシテ特別ノ性格ヲ具

如此ク証付ヲ得テ船

作テハ其國ノ船舶ト

以テ若シ事故アルニ臨

ルノ虞 蓋シ一能ハサルナリ然レモ一平

時貨物ヲ裝載シノ船舶ト一様他國ノ貨物トシ

テ証付ヲ取り以テ出港税ニテ免レシ

トスル時モ其他國ノ 号ト免状トニ因テ其貨

物ヲ裁決セサルナリ蓋シ船舶上貨物ト

政府ノ權威ニ因テ

ヲ得セシメス又貨物

管ヲサルナリ若シ平時貨物

物ノ付ラ患ル 模様ナクシテ積出

船舶今共ニ没収ス可クニ

スルカ如クハ最法ヲ以テ優ニ之

スレモ其ノ所ナリトス

三百四十一條 前条ニ戦争国送ヒク又

准ルレテ 國君ヨリ特

ハレタリ

唯其政府

ス故ニ敵国

之ヲ准ルスニ非シ

オス是レ戦時ト云テ例ナ

国君ハ一事情ノ斟酌シテ以テ准

ズ此規則ハ敵国ト直チ

ラハ尚ホ敵ノ友国或ハ中立

為メニシテ敵国ヨリ免状ヲ

リ嚴禁スル所トセリ又

出ス所以ノ者ハ己レ稗

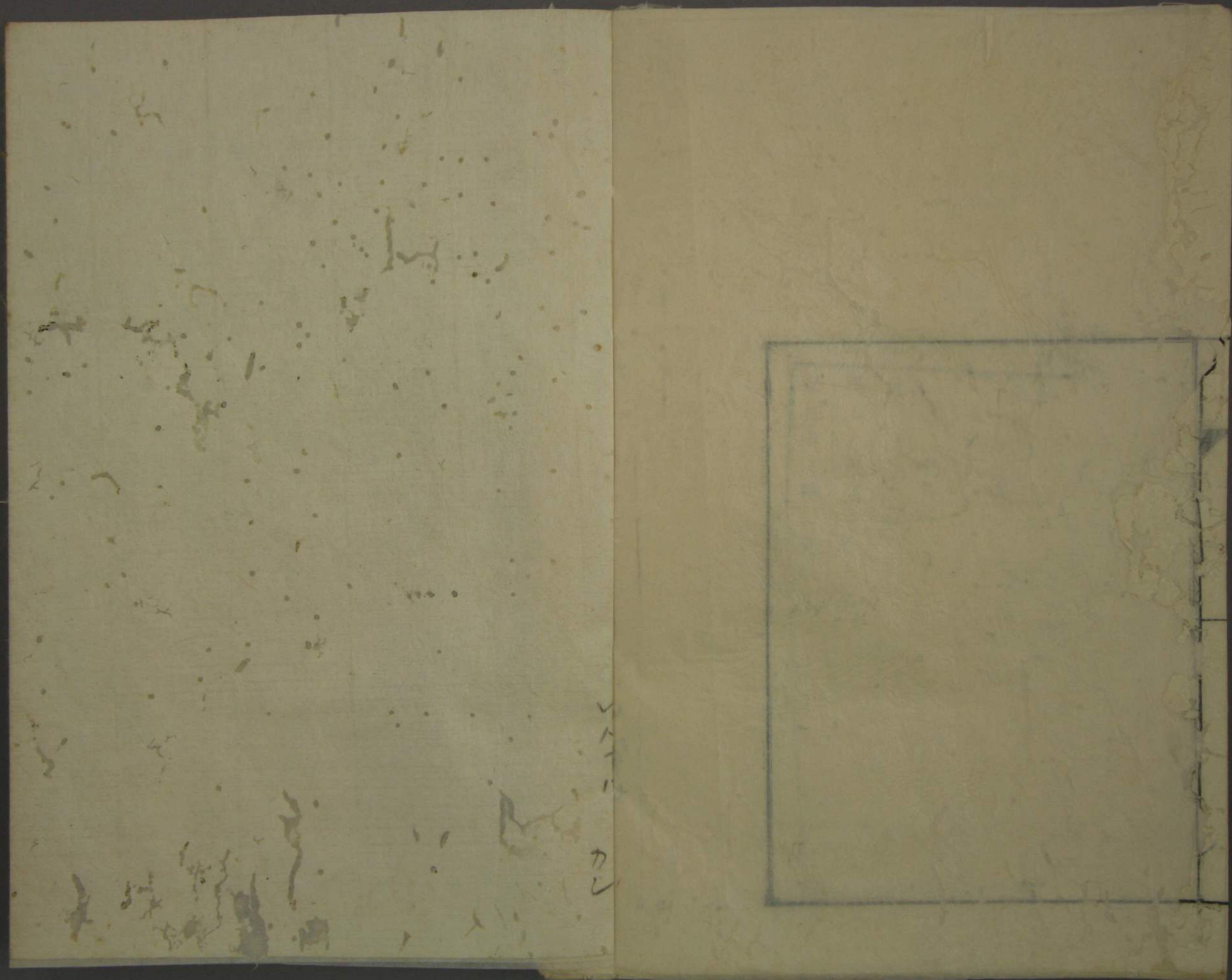
のルヤク

益ヲ謀テ以テ戦事ノ助ケニトスルノ意ニ過キ

ナルナリ我カヨ

免状ヲ得テ彼ヲ助ケル

ノ權利ハ可ナカルナリ



カ
レ

